

宮崎大学医学部整形外科

# 同門会誌

第 18 号  
平成 19 年 5 月

宮崎大学医学部整形外科学教室同門会



平成18年度 宮崎大学医学部整形外科学教室 新入教室員歓迎会 平成18年 4月15日 於 宮崎観光ホテル



平成19年度 宮崎大学医学部整形外科学教室同門会 忘年会 平成18年11月25日 於 宮崎観光ホテル



## 御挨拶

### 河野雅行

先日施行された県知事選挙は意外な結果となり、目立たなかった我が県も全国的に有名になりました。最近は大マスコミに知事のパフォーマンスの出ない日はありません。しかしブームはいずれ去ります。これからは地道な県政運営が要求され、為政者としての実力が問われることになるものと思われます。その他、本年は統一地方選挙、参議院選挙と予定されています。地方分権傾向の強い昨今、いずれも我々の生活、特に医療行政に直接関わり影響の大きなものばかりで、無関心ではられません。医療を巡る情勢の厳しい折、選挙の結果を注目する必要があります。また、鳥インフルエンザ発生とその対応に見られた様に、身近に起こる様々な危機に、普段我々は余りにも無防備である事を再認識させられました。油断大敵、危機管理の重要性を教えられた例でした。さらに、キャンプ王国、スポーツランドの宮崎県から永年親しんだジャイアンツ・キャンプが他へ転地する噂も乱れ飛びました。真偽については藪の中ですが、自然環境に恵まれていても安穏として改善する努力を怠れば、誘致に熱心な他の地域に横取りされるのは目に見えています。我々も大学、県、医師会を軸にスポーツ・メディカル・サポート・システムを早急に作り上げて協力する必要がある

と思われる。

毎年同じ事を述べておりますが、医療を巡る情勢は大変厳しくなっております。産婦人科・小児科医師不足から端を発し外科系の医師不足と地方病院からは内科医師の引揚げ・不在も問題化しており、地域医療は事実上崩壊していると申しても過言ではありません。経済優先の施策の結果がこのような悲惨な状況に陥ったとも言えます。一端崩壊した医療体制を再構築するには、崩壊させた何倍もの手間と時間が掛かるものと思われます。国民が医療に対して正しい知識を持って問題を共有しない限り、我々だけで騒いでも様々な要望を通す事は出来ません。医療を良くする為には我々医師側が結束して改革に当たると同時に国民を味方につける努力が必要と思われます。そんな中でも多数の同門先生方が医師会役員、委員として内側から御活躍されており、大変頼もしい限りです。活躍を助ける為にも同門諸先生方の後押しをお願いいたします。

平成18年度は教室では特別大きな行事はありませんでしたが、帖佐教授を中心に着々と実績を挙げられているようです。そんな中でも同門会活動は例年通り順調に執行されております。新しく正会員・賛助会員合せて12名の先生方

が入会されました。御入会を歓迎いたします。  
今後の御活躍を期待いたします。本年度は谷島  
先生、神菌先生、渡部先生が新規開業されまし  
た。皆様、御盛業中と伺っております。社会情  
勢は厳しく楽観は許されませんが、健康に注意

されて地域の患者さんの為に頑張ってください  
たいと思います。

以上簡単ですが、同門諸先生方の更なる御活  
躍を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。



## 新年度を迎えて

帖 佐 悦 男

昨年度も、地震・台風・竜巻など災害の多い年でありました。被害に遭われた方々にあらためてお見舞い申し上げます。

さて、新年度を迎え巻頭言を述べます。大学全体としては統合後生き残りをかけて現在の研究のさらなる発展や学際領域ないし異分野連携共同研究の推進を行ったり、任期制や個人評価が開始されています。医学部附属病院は増改築工事が開始し、中央診療棟が本年の11月には完成し新しい手術室が稼動致し、併せて外来新棟の新築や病院全体の改築が行われます。電子カルテシステムやセカンドオピニオン制度など開始していますが、慣れないためご紹介頂きました患者さんにご迷惑をお掛けしており申し訳ございません。

教室に関しましては、新入教室員として中堅の整形外科の先生1名、新卒後臨床研修生3名をお迎えすることができています。また、病院には理学療法士が1名配属になりました。有難うございました。皆さん夢と目標をもって診療・研究・教育にあたって頂きたいと思っています。臨床に関しては、まず専門医をとり、その後少しずつスペシャリティを考え、もちろん研究に専念したい場合、大学院へ進むことも貴重な体験になります。夜間大学院もありますので活用

してください。また、若手医師を中心としたセミナーも開始し非常に好評のようです。次のステップとして全国・国際的なセミナーなどにも率先して参加してください。

新臨床研修制度により、研修医が中央の病院へと集中したため、地方では公的病院・民間病院のみならず大学病院も医師不足のため、関連病院への医師の派遣が不可能となり、地方の病院、しいてはその地域の患者さんに不安な思いをさせることになっております。ご存知のように宮崎県でもマスコミに取り上げられる機会が多くなっていますが、整形外科も同様に苦境に立たされており、県内の中核病院への派遣や開業される先生など他の要因も加わり医師派遣の要請には充分お応えできない状況が続いております。何とかこの難局を乗り切るためには教室・同門の先生方のご理解・ご支援が必要であり、今までも一人分以上活躍していただいていたが、より一層協力し合って頂くようお願い致します。

特に本年度は、宮崎県出身者が3名の学年でもあり大学全体として勤務する医師が2割を切っており全ての講座（分野）にとって大変な年です。大学に勤務する医師の増加対策として、地域枠の推薦入学や県および医師会とのより一層

の連携を開始しています。すぐに結果は現れないと思いますが、長い目で見守っていただければと思います。

嬉しい話と致しまして、プロジェクトが2つ（連携融合事業；スポーツ外傷、障害の病態解明 — スポーツメディカルサポートシステムの構築 — ・骨粗鬆症治療戦略の開発；解剖学講座分子細胞生物学の今泉教授との研究）開始しています。同門の先生方で興味のある先生は是非ご参加下さい。また、田島名誉教授の念願でもありました日整会の野球大会で優勝し、昨年

度はV2を達成することができました。このことも選手の活躍はもとより学会期間中病院を支えてくださいました先生方のご協力があったからこそです。有難うございました。

最後になりましたが、本年度も教室員の和を大切に、質の高い臨床・研究を実施し、学内外連携を推進し開かれた特徴ある臨床外科系講座として貢献したいと思っております。そのためにも、教室・同門の先生方のご指導・ご鞭撻を、これまで以上によりしくお願い申し上げます。

# 目 次

ご 挨拶 .....	河 野 雅 行	
巻 頭 言		
新年度を迎えて .....	帖 佐 悦 男	
退職にあたって		
退職にあたって .....	長 鶴 義 隆	1
女性医師の現状		
女性医師の現状について .....	向 井 由 姫	3
女性医師の現状 .....	福 嶋 麻 里	5
女性医師の現況 .....	小 松 奈 美	6
女性医師の現状 ??? .....	勝 鳶 葉 子	7
女性医師の現状 .....	山 元 美 智 子	9
女性医師の現状 .....	崎 濱 智 美	10
女性医師の現状 .....	吉 川 教 恵	11
女性医師の現状 .....	小 牧 ゆ か	13
女性医師の現況 ～私の場合～ .....	弓 削 七 重	14
女性医師の現況 .....	近 藤 梨 紗	16
医 局 長 挨 拶		
医局長挨拶 .....	関 本 朝 久	17
第 1 回 同 門 会 奨 励 賞		
宮崎大学整形外科同門会奨励賞を受賞して .....	関 本 朝 久	19
関 連 病 院 近 況		
N T T 西 日 本 九 州 病 院 .....	飯 干 明	21
球磨郡公立多良木病院近況報告 .....	浪 平 辰 州	23
渡辺整形外科病院 .....	工 藤 勝 司	25
熊本市市民病院麻酔科研修近況報告 .....	小 島 岳 史	26



## 同門会・医局行事

- 2006年医局旅行(中国・上海) …………… 河原勝博 …… 27
- 祝 日本整形外科学会親善野球大会二連覇…………… 関本朝久 …… 30
- 第49回西日本整形外科親善野球大会 …………… 安藤徹 …… 35
- 祝 全国大会初出場!
- 日本整形外科学術集会親善サッカー大会 …………… 山本恵太郎 …… 37
- 同門会ゴルフ大会を振り返って …………… 帖佐悦男 …… 39
- 第9回同門会テニス大会 …………… 福田健二 …… 40
- 第2回同門会マージャン大会報告 …………… 税所幸一郎 …… 41
- 第2回帖佐杯に優勝して …………… 益山松三 …… 42

## 新規開業

- 新規開業に当たって …………… 神藺豊 …… 44
- 新規開業 …………… 渡部正一 …… 45

## 新入会員紹介(賛助会員)

- 入会のご挨拶 …………… 前原尉 …… 47

## 同門会総会議事報告 …………… 48

## 寄稿

### 地域包括センターについて

- 宮崎市郡医師会との関わり — …………… 岡田光司 …… 50

## 教室同門の研究業績 …………… 51

## 編集後記 …………… 70



## 退職にあたって

県立日南病院 整形外科

長 鶴 義 隆

奈良医大卒業後、14年、1984年1月1日付けで、宮医大に赴任しました当時は、木村教授、田島助教授のもとで、主に下肢関節疾患を中心とした診療を担当しておりました。当初の半年は、病棟の当直、武内先生の手術の手伝いもしながら、診療するにつれ、徐々に小児から成人までの股関節疾患は増加の一途をたどるようになり、漸く本来の股関節専門外来の設置への運びとなりました。それに伴い、自己血輸血の導入と共に、股関節グループのスタッフ一同と一致協力して、最良の股関節医療を実現可能なものにするために、各症例ごとに、病歴を詳細に聴取、分析し検討を加え、EBMに基づいた治療方針を立てる、いわゆるSOAP形式で対応しながらも、日夜を問わず、股関節のことばかり考えて色々と苦悩の連続でした。その甲斐あってか、股関節疾患をメインテーマとした演題が、徐々に地方それに全日本の学会にも提出できるようになった頃には、大学では、最早8年が過ぎ、県立日南病院へ転勤となりました。その当時、田島教授の過大な御尽力と御配慮のもとに、教室のスタッフの方々の協力も得られ、今日まで私のLife workとしての股関節外科が継続できましたことは、前教授の木村、田島先生、現教授の帖佐先生をはじめ、教室のスタッ

フの他、同門の先生方からの温かい御配慮と御好意によるもので、常々、深謝致しております。県病院での15年間、CPの他、色々と治療に難渋した症例も多々遭遇して非常に苦心しました反面、それ相応に多くの学会にテーマを提出するのに不自由はしませんでした。今、思えば、多くの症例に対して、先ず患者の病期、年齢、ADL等を十分考慮の上、人工物に極力たよらぬ本来の関節を温存する生力学的治療法に基づいた種々の機能的再建術を第1選択として採用して成果をあげてきたものだと自負しております。治療にあたり何時も心にとめている非常に大事なことは、患者には自分の家族と同様に、最良の医療を尽くし、患者の生涯をとおして、施行した医療行為に対しては、全責任を持つという位の覚悟をもち、予め万全の準備を整えた上で、いつも平常心でメスをとるひたむきの姿勢です。このような精神の背景には、医師のProfessionalism、すなわち、自分の選んだ仕事にPrideを持ち、その使命感と責務の重さを忘れずに、常に医学の専門的知識と技能を習得するように一路邁進することの重大性を日常認識し、自らを律し、送る厳しい医師生活の管理保持が不可欠です。幸いにも、そのような私の思いが通じたのか、患者の口こみで、相当の患

者が遠方からも信頼して来院するようになり、  
今も尚、そのような患者の長期に亘る治療経過  
を観察している状況です。  
退官後も、このような患者と共に医師をやめる

まで、残りの人生を送れたら、私の医師人生に  
は悔いなしといっても過言ではないように思え  
ます。

## 略 歴

年 月

- |       |    |                                   |
|-------|----|-----------------------------------|
| 1970. | 3  | 奈良県立医科大学卒業                        |
|       | 4  | 奈良県立医科大学整形外科学教室研究生                |
| 1975. | 9  | ハイデルベルグ大学 (Prof. H. Cotta)        |
| 1977. | 10 | ヴィヘルンハウス整形外科 (Prof. H. Wagner) 留学 |
| 1978. | 1  | 奈良県立医科大学整形外科学教室助手                 |
| 1981. | 2  | 医学博士号取得                           |
| 1983. | 4  | 日本整形外科学会整形外科専門医                   |
| 1984. | 1  | 宮崎医科大学整形外科学教室助手                   |
| 1989. | 12 | 宮崎医科大学整形外科学教室講師                   |
| 1992. | 4  | 宮崎県立日南病院整形外科医長                    |
| 1996. | 4  | 同上 部長                             |
| 2003. | 4  | 宮崎大学医学部医学臨床教授                     |
| 2007. | 3  | 定年退職                              |



## 女性医師の現状について

向井由姫

「立ち去り型サボタージュ」という言葉を最近よく耳にするようになりましたが、医師を取りまく労働環境はますます厳しいものになってきている中で、最近増加傾向にある女性医師が、いかに活躍できる場を作れるかという問題は大きなことだと思います。医局を離れ、7年経つ私の現状をお書きしてもあまりお役にたたないとは思いますが、若い女性医師の方々に少しでもご参考になれば幸いです。

現在37歳、3人の子宝（6歳、5歳、1歳）に恵まれております。（主人はまだ希望しているようですが、とんでもありません。）結婚前は、私は子供を生んでもバリバリ働くわ、仕事を辞めるなんて、と一んでもないと軽く考えておりましたが、現実には、そんなに甘くはありませんでした。長男を出産した時期は、医者になり7年目で、本当に、精神的につらい思いを多くいたしました。悪阻で吐き続けた時期は、仕事ができず、周囲には迷惑をかけるし、自分だけとりのこされるのではないかと、イライラしたり、こんなはずではなかったと、一人泣いたり。また、妊娠初期には、手術中、突然透視が必要になり、プロテクターもしないままに透視をかなりあび、生まれてくる子供に影響がでるのではないかと、生まれた子を見るま

で心配もしました。

子育ても、核家族で頼れる祖父母もあてにできない私にとっては、そんな簡単なものでは、ございません。昼間は仕事をしながらの、夜の2時間毎の授乳。子供が熱をだせば、保育園に迎えに行かねばならず、仕事に穴をあけたり。後ろ髪をひかれながら、病時保育に預けたり。そんな中、主人と相談し、子育てをしながら、医者を続けるために私が選択した道は、主人の精神科病院の内科部門を手伝うことでした。（入院患者数がかなり多く、内科的管理の必要とされる患者さんも多いため）そのため現在は、その準備に、内科の勉強に週5日、近くの病院に通い、週2回午後整形の外来のバイトをしています。内科の病院へは、臨床研修医という枠で、月謝を払い、9時～4時30分の勤務、当直の免除、子供の緊急時の欠勤を条件としていただいております。しかし、そこも、最近の研修制度のあおりをうけ、医者不足で、職員になり当直をして欲しいといわれております。（到底無理な状態なのに……）

私の場合、キャリアを積むのではなく、キャリアを少しでも維持していけたら、これ幸いという状態です。中途半端な仕事で、将来を考え、不安になることもあります。しかし、子供のお

かげで、思いもよらず、漢方の勉強を開始し、東洋学的にアプローチする方法を学ぶ機会を得ることが出来たりとか、保育園で勉強している「食育」の考え方が指導に役立っていたりします。また、心エコー、糖尿病の薬物療法など、今まで興味のなかったことも出来るようになりました。こういう機会を与えてくれて、こんな母についてきてくれる子供に感謝しつつ前向きに捉えていこうと思っております。

紆余曲折あったのち、このようにしながら仕事はどうか、こうにか続けておりますが、今でも24時間体制の院内保育所を切望しております。医師不足といわれており、医学生の4割近くまでもが女性である現在、少しでも産前、産後の労働環境が改善されれば、離職していく割合を減らす事ができるのではないのでしょうか。また、ワークシェアリングできる体制もぜひ導入して頂きたいとおもっております。それらが存在していたら、私にも他の選択があったので

はないかと思えます。

結婚をするかしないか、子供をもうけるか否か、色々な選択があると思います。私は結婚をして子供をもうけるという選択をしました。医者という職業は、結婚、出産をする女性には開かれた職場ではなかったと思いますが、今後は、今の時代背景を考えますと、女性医師への結婚、出産のサポート体制が整っているか否かで、入局する女性医師の人数に差が出てくるかもしれません。

方向転換をしておきながら申し上げるのも変ですが、よく、外科系は、結婚、出産は難しいといわれますが、友人、先輩を見ていると、結果、その違いはなかったように思いました。整形に入局された女性医師の方々将来は明るい？かも知れません。世相も後押しをしてくれる今、働きやすい職場をがんばって、築いていってください。



## 女性医師の現状

福 嶋 麻 里

現在、主人の勤務地である串間市で二人の子供と生活しています。平成16年に息子を出産してからは産休・育休・パート勤務を繰り返し、医局のローテーションへは全く貢献できず申し訳なく思っています。反面、家族とゆっくり過ごせる時間を頂いたことは本当に感謝している次第です。毎日子供と手をつないで散歩をしていると、前には意識しなかった季節の変化を感じたり、自分が子供のときに味わった感覚を思い出したりします。その分、仕事で使っていた

脳の部分が退化して怖かったりもしますが…。自分でも意外な展開に多少驚きつつ、感動と葛藤を味わいながら過ごす日々です。

医療に関しても、受ける側になることがここ数年でぐんと増えました。待合室で待つ側になってしまったわけです。正直、イライラしたり不安だったりしますが少しは慣れてきました。この経験を、いつか自分の仕事に役立てていければ、と思っています。主婦業を極めるタイプではなさそうなので、近い将来に、でしょうか。



## 女性医師の現況

野崎東病院

小松 奈美

今回、女性(?)医師の現況というタイトルで原稿依頼を頂きましたが、男性医師との違いといえば更衣室とトイレぐらいで、これといったネタが思い浮かびませんでした。従いまして、勝手ながら私自身の現況報告をさせて頂きたいと思います。

私は、昨年の1月より田島先生をはじめ後藤先生、井上先生の御指導の下、野崎東病院に勤務しています。以前と比較して、下肢を中心としたスポーツ外傷・障害の患者さんを診察する機会がとにかく増えました。県内のかなり遠方から受診される患者さんもいらっしゃって、期待に込められているのか……と自問自答しながら診察にあたっています。

オペは脊椎と肩・膝を中心とした鏡視下手術が中心となっています。脊椎のオペ後は、慣例に



図1a：脊椎術中



図1b：脊椎術後

従いましてK輔先生の御指導の下、しっかりスイーツを補給しています(図1ab)。

また、病院及び諸先生方の御理解・御協力の下、U-19、U-16のサッカー女子日本代表のトレーニングキャンプ・遠征・大会に帯同する機会を得ました。昨年4月にマレーシアで行われたU-19のアジア予選では世界大会に進むことができませんでしたが、今年3月に同じくマレーシアで行われたU-16アジア予選では、無事世界大会の出場権を得ることができました(図2、3)。これからも、御協力頂いて

いる方々への感謝を忘れずに、可能な範囲でこのような活動を続けていければと思っています。

同門の先生方には色々とお迷惑をおかけしますが、今後とも御指導、御鞭撻の程よろしくお願いたします。



図2：マレーシアの風景



図3：トレーナーと



## 女性医師の現況???

勝 蔦 葉 子

今回「女性医師の現況」というテーマで原稿依頼を頂きましたが、正直何を書けばよいものか全く思い浮かびませんでした。

まず、「女性医師の現況」というテーマを見て、①現代社会における女性医師の現状、②当同門会の女性医師の現況、③私個人の近況報告、といったことを考えました。まず①ですが、女性医師が仕事を続けるにあたり、避けては通れない「仕事と家庭の両立」といった内容が連想されます。しかし、これまでに一度も家庭を持ったことのないわたくしには、その大変さは想像すらできず、ましてやそれについて想像で文章を書くなど到底できそうにありません。世間一般でいういわゆる「勝ち組」にあたる、このテーマにふさわしい女性医師は同門の中に他に何人もおられるのに、なぜこのテーマが私にふられたのかはなはだ疑問です。もし、負け組女性医師として自己分析した結果を書け、というのであれば、それはあまりにも残酷です。次に②ですが、数年前に宮崎を離れ埼玉・高千穂・熊本と移って参りましたが、情けないことに人事すらあまり把握できていない状況で、同門の他の女性医師がどう過ごされているか、ほとんど知り得ておりません。これもまた、私には荷が重い内容であります。さらに③に関してですが、

この場を借りて皆様にお知らせするような「ネタ」は特になく、全く論外です。

以上のことから全く筆が進みませんでしたので、現在わたくしの勤務する「NTT西日本九州病院の女性医師に訊く」とテーマを勝手に変更し、調査結果を報告させていただきます。ちなみに私が勤務した大学以外の病院の中で、女性医師が3名以上勤務する病院は私にとって当院が初めてでした。

当院には平成19年3月現在10名(内科系6名、外科系4名、健康管理センター2名、歯科1名を除く)の女性医師が勤務しており、平均年齢36.3歳となっています。既婚者5名のうち子供をもつ医師は4名おります。既婚者5名の方の配偶者は全員他院の医師です。当院では、就学前の子をもつ女性医師は本人の希望があれば日当直を免除されていますが、夜間・休日の各科の病棟当番やcallは通常通りのようで、ときには休日お子さんを病院に連れて来ざるを得ない場合もあるようです。全員夫婦どちらかあるいは両方の実家が熊本にあり、その点は非常に心強いそうです。当院では、配偶者が同じ診療科(医局)という方がおられないのですが、医局人事で配偶者が遠方へ異動となったときは、自分も異動願いを出されたという例



がほとんどでした。その結果は様々で、お子さんがいない場合は単身赴任という結果が多いようです。(異動願いを出して受理されたはいいが、実際の異動が毎回2年遅れで、結局ずっと別居だった、という先生もおられました。)

私と同期のある医師は、保育園に通う2児の母なのですが、この6月に退職するということが最近聞きました。昨年中に、近々異動とは聞いていたのですが、退職それも大学の医局を辞めることにしたとのこと。配偶者が関西方面へ異動になりしばらく単身赴任をしていたものの、配偶者の希望で子供を連れて自分もそちらに行くことにしたそうです。むこうでの仕事のことにはまだ考えていないらしく、仕事が見つければ働くと言っていました。仕事ができ、患者さん・

スタッフにも人気のある医師なのに、「もったいない」の一言です。

医師として働いていくにあたり、家族を始め周囲の人の協力が必要不可欠であることに性別は関係ないとは思いますが、結婚したり出産されたりする女性医師の場合はさらにその必要性が高まるように感じました。他の大学に比べると、宮崎大学整形外科は女性医師の数が多印象がありますが、内科など他の科に比べると多いとはいえません。今後も入局される女性医師の数は増えていくと思われそうですが、そうなった場合でも、せっかく選んだ整形外科医という仕事をずっと続けていけるような医局であり続けていただくよう望みます。



## 女性医師の現状

山元 美智子

男女の差を感じたことのない私だった。

それを変えたのは、息子の出産。妊娠中は、息子を1ヶ月で預かってくれる保育所があれば預けたいという思いが強かった。しかし出産後は母性本能の為か、産休後も仕事を辞めてでも息子の育児を続けたかった。でも産後2ヶ月、私は息子を泣き泣き保育園に預けた。

現在、育児休暇は産前に決めないといけない。しかし、私のように産後になって初めて母性本能が出る女性も少なくないはず。

幸い私は基本的に搾乳の時間を午前と午後に30分取ることができたが、やはり仕事に追われ時間が取れないこともしばしば。まったく搾乳の時間が取れない職場がほとんどではないだろうか。母乳育児を強く希望する女医にとって職場復帰は困難である。

当面は、復帰後の1ヶ月は休ませてもらったが、やはり医師不足の中、自分だけ当直をしないのも気が引け、息子、夫と3人で当直部屋に泊まっていた。幸い Dr. call は頻繁に鳴らなかったが、当直室を出るときは後ろ髪を引かれる思いだった。

子供は、特に3歳頃まではしょっちゅう病気をするのが当たり前。でも病児保育をしている保育所はあまりにも少ない。

私の周りでも、結婚や出産を機に医師業を辞めた女医は少ない。以前はこの女医達の気が知れなかった。しかし、今となっては共感している。

比較的理解のある職場、および夫の理解と援助のおかげで私は退職せずに育児と仕事を完璧にはほど遠いが両立している。



## 女性医師の現状

崎 濱 智 美

整形外科に入局して4年が経ちました。今、女性医師としての率直な感想としては「女性医師に慣れた」という感じです。少し乱暴な表現かもしれませんが、自分自身も女性医師として仕事をするのに慣れてきましたし、いろいろな病院のコメディカルを含めたスタッフの方も女性医師と働くことに対して慣れたのではないかと思います。入局当初は私自身も「女性だからって馬鹿にされないように」と変な気合が入っていて、周囲に頼りたくてもできなかつたりしました。患者さんには「看護師さん」と言われ、当直先などでは医師と気付かれなかつたり、スタッフに変に気を遣われたり逆に突き放される対応をされたりと様々で、みんな「どう対応してよいかわからない」と言った印象を受けることがよくありました。私が医師らしくしていないせいもあったのかもしれませんが、最近ではどこで仕事させていただいても、気付けば自然に受け入れていただいている気がします。たった4年でかなり変わったと思います。

幸い私は今までどこに勤務しても、先輩医師の先生方からは男性とも分け隔てなく、仕事はもちろん仕事以外でもかわいがっていただき、また女性の先生方には悩んだ時には相談に乗っていただいて、大変仕事をやりやすい環境に恵まれていると思います。また患者さんに「女の

先生でよかった」と言われると、とても嬉しいですし、男性医師が多い整形外科に入局したからこそ、女性の良さも活かせるのかもしれないと感じます。医師になって、整形外科に入局してよかったと思います。

逆に女性だからこそ大変だと感じることはどの先生も考えておられることと思いますが、結婚・妊娠・出産のことです。整形外科に限らず、女性医師は妊娠・出産後働いてはいますが第一線を退くしかないのが現実だと思います。公務員・会社員や看護師が、結婚して出産してもバリバリ働いているのを見ていると、とてもうらやましく思います。医師の仕事の特性から家庭と仕事の両立は非常に難しく、また現段階ではそれを解決する方法もあまりないです。託児所を作るなどの動きはあるようですが、医師の勤務体制が現在のままである以上、子どもを預かってもらうだけでは解決しない気がします。私にもいずれは降りかかってくる問題なので、何かいい方法はないかと考えたりもしますが、難しいです。でも私は結婚も出産も仕事もしたいので、どこまでできるかわからないですが、できるところまでやってみたいと考えています。その時に男性の先生方の応援をいただければと思います。

女性医師がたくさん入局してくれるのを願いつつ、これからもがんばりたいと思います。



## 女性医師の現況

吉川 教 恵

妊娠を機に大学院に入学させて頂いてから3年が過ぎ、とうとう最終学年となりました（論文ができあがれば、ですが……）。私たちの学年は、新研修医制度が始まる前の最後の学年で、次の学年は入局がおらず教室員が足りない中、大学院（しかも基礎系の薬理学）に出させていただき、帖佐教授をはじめとする教室の先生方には多大なご迷惑をおかけしてきたので、出来るだけ早く論文を仕上げ、臨床に帰りたいと思っております。

今回、『女性医師の現状』というタイトルで原稿依頼を受け、はて？現状？何を書けばよいのやら……と困惑していましたが、今回は私の研究のことで、それを支える日常をご紹介しますと思います。しばし、おつきあいください。

先程も申しましたとおり、現在大学院4年生で、論文の投稿に向けて日々過ごしております。テーマは、「ゲルダナマイシンによるインスリン受容体シグナル分子の変動」。ずいぶん整形からは離れたテーマだな。と思われそうですが、ゲルダナマイシンは新しい分子標的抗癌剤として注目されており、この薬物の誘導体17AAG（ゲルダナマイシンは肝腎毒性があるため）は欧米では臨床試験が行われています。そして、インスリン受容体シグナル分子。インスリンと

聞くと、すぐに糖尿病を連想しますが、実は、脳・神経系において、インスリン受容体の細胞内シグナリングが、細胞生存・細胞死のシグナル伝達系を統合し、神経新生、神経突起の伸長、神経回路網の形成・維持・修復、学習・記憶などを促進することが報告されており、またインスリン受容体シグナル分子の中には、骨の形成・成長には欠かせない分子もあるため、整形分野にも近からず遠からずといったところで（整形に帰っても活かせるはず……と思いつつ）基礎研究を進めています。このテーマで実験を始めて丸2年ですが、実は論文の軸となるデータはすでに1年で出ていました。それがなぜ未だに論文になっていないのか？チャンピオンデータがそろわないのです。何度やっても傾向は一緒で、結果に間違いはないのに、論文に自信を持って出せる綺麗なデータがそろわない。今回ばかりは自分のO型気質を悔やんでいます。しかし、そんなことも言っておられないので、データを出すために日々、実験、実験です。

そしてそれを支える日常。子供は、現在2歳になり、この4月からは大学の院内保育園『くすの木保育園』に預けています。働くママにとって保育園は神様のような存在ですが、とうとう4月から大学の前の宿舎の一角に院内保育園が

できました。まだ開園間もないので、入園した子供も少なく、時間帯も7時~18時(19時まで延長あり)、24時間保育は週に2日のみという状態ですが、これからいろいろな要望に応じて改善されていくということなので、期待しています。院内保育園があることは、医学部入学の半数が女性という現状で、大学で働く女医にとってはもちろんのこと、女性から敬遠されやすい医局としても強みになるのではないかと考えています。

あと、忘れてならないのが家族。実験が忙しいときや、学会前など、どうしても家事は手抜きになります。(いや、いつもかなり手抜きなので、それ以上に手抜きになるというのが正しいですね。)子供に関しては手を抜くことができないため(そればかりか、私が忙しいときに

限って、それを察知したかのごとく甘えてきます)、そのしわ寄せはいつも主人にきます。「仕方がないよね」で済ませてくれる主人に感謝。主人の周りの先生方、『主人の弁当がないとき』、それは私に逃げられたからではなく、私の手抜きです。ご了承を。

最後に、ある学会誌に女性研究者が著されていて、深く共鳴した文章を紹介させていただきます。

“「戦略」と「競争」でなく、「理解」と「協力」によって、天を支える女性の数が増えて、女性にとっても男性にとっても良い研究環境になることを願っています。”私は、研究でも臨床でも、良い環境の中で勉強させて頂いており、本当に感謝しています。感謝の気持ちを忘れず、日々是鍛錬、精進していきたいと思えます。



## 女性医師の現状

小 牧 ゆ か

入局して1年半経過しました。

日々、先輩方に親切にご指導していただき、飽きっぽい性格の私もまだまだ好奇心持って望む毎日です。

さて、女性医師の現状についてですが……

学生時代に、整形外科は「男の人の職場」と考えまったく興味を持っていなかった私ですが、気づけば宮崎大学整形外科で楽しく働いている毎日があります。

確かに医局員は男性が多いのですが、紳士ばかりで、いろいろと気遣っていただいているな～と日々感謝しております。

そんな医局だからこそ、これからはもっともっ

と女医さんの入局があればなあ、と思っています。現在、病棟で働く私と崎浜先生とで空き時間に girls talk をするのがちょっとした楽しみとなっていますが、（話の内容は決してかわいい内容ばかりではありません。）メンバー募集中です。

諸先輩方の中には家庭をもちつつ、お子様を育てつつ、仕事もされている先生の話聞くことがあります。そういう現状が励みになり……

「私もいつかそんな生活を」と妄想膨らませつつ、私もがんばって働いて、遠い(?)未来、後輩を励ましたいものです。



## 女性の医師の現況 ～私の場合～

弓 削 七 重

女性医師の現況と一口にいても、学生時代の友人たちの現在を見ても、独身でバリバリ働いている人もいれば、結婚して専業主婦になっている人、子供をベビーシッターに任せて研究に没頭している人、臨床から離れて子育てしながら行政の仕事している人……仕事の形態は、実に様々です。私たち女性医師が結婚したい、子供を産みたいと考えたとき、自分の体はひとつですから、どうしてもどこにどれだけ重きをおくか、いろいろな形で選択を迫られることとなります。前述のように、家庭や子育て、仕事に対する考え方は人それぞれでしょうから、女性医師の現況～私の場合～ということで書かせていただきます。

私は大学卒業後、そのまま長崎大学整形外科医局に入局しました。整形外科医である父は、女に整形の仕事はできないと反対し、内科を勧めていましたが、私が入局を迷っていたのは、他に心臓血管外科と消化器外科でした。結婚、出産を経ながら仕事をしてきて、やはりその中から整形を選んでよかったな、と思っています。とはいっても、学会会場に託児所が設けられるような内科系の科とは違い、整形は男社会。手術症例のほとんどが外傷であった長崎市内の救急病院に、医長として勤務していた時に初めて

妊娠し、急に透視下の手術に入れなくなり、つわりがきついのではばらく当直を免除してほしいと願い出ました。その時、それまではとてもいい人間関係で一緒に仕事をしてきた上の先生に「だから、女はよこしてくれるなって言ったのに」と言われたときの悔しさはきっと一生忘れないと思います。しかし、ハードな勤務体制で頑張っていた頃だったので、院内でやりくりできず、大学から私の分の当直や手術のヘルプに、たくさんの先生が入れ替わり来られるのを見て、申し訳なくて頭を下げっぱなしでした。

私より5年前に入局した先輩は、透視を浴びながら知らないうちに妊娠したくないと、「子作りに専念したいのでいったん休職したい」と申し出て医局会で物議をかもしていました。その頃まだ研修医だった私にも女性だからと意見を求められ、皆の非難が集中するなか、一生懸命弁護したことを思い出し、私もそうしていたら、こんなに周りに迷惑かけずに済んだのだろうか、いろいろ考えてしまいました。その後の体調は良かったので、妊娠9ヶ月に入っても、透視を使わない手術の執刀をしたり助についたりしていましたが……。

出産前後は専門医試験の症例提出書類作成と筆記試験のための勉強に追われ、あわただしく

過ぎましたが、産後2ヶ月もすると仕事したくてウズウズしてしまい、「赤ちゃん連れでもいい」という老人ホーム併設のクリニックに外来をしに行き始めました。診察室の横に赤ん坊を寝かせ、時々授乳しながら、お年寄りの話し相手&注射&物療。それまでは大きな病院にしか勤務したことがなかったので、こんな働き方もあるのだな、と目の前が開けた思いでした。長男が10ヶ月になると、本格的に保育園に預けて仕事ができるようになりました。主人の転勤があると、そこで保育園探しと就職活動をやりなおすのが面倒でしたが、当直なしの条件でも働かせてもらう病院はわりとすぐ見つかり、どこでも歓迎されたのでありがたかったです。

しかし、保育園は熱発すると預かってくれません。外来は曜日が決まっていて予約が入っていたりもするので、迷惑を考えると簡単には休めません。朝、こっそり解熱薬の坐剤を入れて、何食わぬ顔で預けたこともありましたが、一日中、心配と後ろめたさで頭がいっぱいでした。二人目を妊娠して出産間近になったとき、実家の母の助けがないと仕事を続けることはできないと思い、宮崎に帰ってきました。(いずれ帰る予定だったのが早まったのです)

現在は子供が3人に増え、小児科の勤務医をしていてほとんど家にはいない主人と5人で生活しています。上の二人は保育園に通っているので、一番下の子だけをちょっと母に見ても

らって実家での手伝い位はできますが、ちゃんと仕事をするにはもう少し時間がかかりそうです。

夜間の呼び出しに対応できないとベッドも持てない、したい手術の執刀もできない……そんな風に考えて気が滅入ることもありましたが、今は仕方ないと思えるようになりました。子供たちを保育園に通わせていても、それ以外の事は人任せにしたくない。真剣に子供たちと向き合って子育てしたい。男兄弟のいない私のために苗字を変え、生まれ育った地であり出身大学もある長崎を離れてここ宮崎に来てくれた、心優しく仕事熱心な私の自慢の旦那様のためにも、家事にも手抜きはしたくない。今は、できる範囲の中で仕事をさせてもらって、少しずつだけでも経験を積みながら、かつ3人の子供の母親であることを楽しみながら過ごせたら理想かな、と思っています。研修医時代に心に描いていた将来の医師像とは違いますが、いつかまた、思い切り仕事に打ち込めるときがくるだろうし、それからでも頑張れると思います。

医局員でありながらまともに仕事できず申し訳ありませんが、長い目で、温かく見守ってご指導していただけたらありがたいです。時間がかかっても、宮崎の地域医療に貢献できる医師になれるよう頑張っていきたいと思っています。これからもよろしく願いいたします。





## 女性医師の現況

近藤 梨紗

整形外科には他に女性医師の先輩方が、たくさんいらっしゃる中、私のような新米医師が、女性医師の現況という大きな問題について書くこと自体がおこがましく思いますが、少ない体験に基づく新米女性医師としての浅薄な感想文として、読み流していただけたら幸いです。

去年は、卒後臨床研修で、5ヶ月間、整形外科にお世話になりました。指導医の甲斐糸乃先生はじめ多くの先生方にご指導いただき、病棟業務や外来業務など丁寧に教えていただきました。また、主治医にならせていただいた患者さんの手術にも参加させていただき、大変感謝いたしております。

この研修の前までは、整形外科は力のない女性には無理と思い込んでいましたが、実際に研修させていただいて、多くの女性医師が、立派な整形外科医として活躍されている姿を目の当たりにして、整形外科医局への入局の意思が固まりました。

昨年4月に入局させていただきましたが、一週間後に妊娠が発覚してしまいました。両親からは、ものすごく怒られました。医局では、皆様から祝福していただきまして、ありがとうございました。身重ということで、透視手術を免除していただいたり、立位の多い手術室から

病棟勤務へシフトさせていただいたり、また、当直も同僚の先生方が交代して下さり、とても大切に扱っていただきました。5月下旬には、切迫流産となり、長い間、お休みさせていただきました。大変感謝いたしております。

7月から夫の勤務先の日向に行き、12月に無事に長男を出産いたしました。今年の4月から、夫が大学勤務になり、宮崎市内で育児家事に奮闘中です。時には医学書を読んだり、父の病院で臨床実習みたいなことをして、復帰に向けての準備もしています。

女性医師が、妊娠・出産・育児をすることは、とても大変なことと思います。家族の協力や医局の皆様へのあたたかいご理解があって初めて安心して子育てできるという事を実感いたしました。大学にも保育所が出来、子供を持つ女性医師が働きやすい環境が整えられ、大変うれしく、また、とてもありがたく思っています。胸をはって仕事をしている母親のうしろ姿を子供に見てもらい、立派に成長して欲しいと思います。

今回、医局の皆様方には大変ご迷惑をおかけいたしました。申し訳ございませんでした。今後は、このご恩を忘れずに医師として一人前になれるよう頑張っていきたいと思っております。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 医局長挨拶

関本朝久

この度、本年も医局長を務めさせて頂くことになりました。歴代医局長のように務め上げることができるか非常に不安ですが、精一杯頑張りますので何とぞよろしくお願い申し上げます。同門の先生方には色々ご迷惑をおかけすることと思っておりますが何とぞよろしくお願い申し上げます。昨年は様々なことがありました。竜巻被害、悲しい事故・事件が相次ぎ、一昨年に続き災害の多い年でした。再び安心・安全確保のための危機管理が特に求められた一年だったと思います。本年は、世の中が、天災・人災等の災害のない平穏な年であることを切に願っております。

さて、帖佐悦男教授新体制がスタートし、3年が過ぎようとしております。本年もまた帖佐体制の進むべき方向を明確にし、教室が発展可能な礎を構築したいと願っております。昨年の教室の行事としましては、例年通り第52回、53回宮崎整形外科懇話会、第34回、35回宮崎県スポーツ医学研究会を開催し、三水会は165回を迎えました。また、さまざまな日整会単位が宮崎県内で取得できるように第2回、3回ひむか骨関節脊椎脊髄疾患セミナーも開催しました。今後も年2回開催の予定です。教室員のみを対象としたMOSSも大変好評でした。

新入教室員歓迎会も盛大に行われました。また、第2回帖佐杯も開催されました。医局旅行は3泊4日の上海旅行でした。とても楽しく盛り上がったひとときでした。日整会全国野球大会では悲願の二連覇をかざることができ、その出場権をかけた西日本野球大会では、6年連続となる出場権を得ることができました。また日整会全国サッカー大会においては初出場を果たしました。教室の現状といたしましては、折からの新臨床研修制度の導入で、関連病院の先生方には大変ご迷惑をおかけしておりますが、今年是新入局が大変困難な中、菊田朋朱先生に御入局頂きました。本当にありがとうございました。菊田先生を教室員として迎えられたことは、誠に大きな喜びであります。今後の活躍を心より期待いたします。

私自身と致しましては、医局長に就任して2年3ヶ月が過ぎました。この間、様々な出来事が発生し、歴代医局長の先生方大変なご苦勞を痛感しております。また私は昨年まで3年間、伝統ある宮崎大学整形外科野球チームのキャプテンも勤めました。皆さんのお蔭で、昨年、一昨年と悲願の日整会全国大会初優勝そして二連覇を成し遂げることができました。これまで医局長と野球キャプテンを兼任された先生はいらっ

しゃいませんでしたが、二足のわらじで中途半端と言われぬよう精一杯頑張って参りました。

最後になりましたが、現在のように様々な変革が起きようとする中、荒波を乗り切るために一番大切なことは、同門の皆様が一致団結し、ゆるぎない基盤を確立することだと思います。相互の信頼と協力、尊敬と感謝、そして思いやりがなければ成り立たないと思います。皆さま方のご健康とご多幸そして宮崎大学整形外科教

室の躍進を祈念して、挨拶と代えさせていただきます。本年も教室員一同が一致協力し、気を引き締めて、安全で良質な医療の提供を維持しながら、この困難な時節を乗り切るよう頑張っている所存です。まだまだ行き届かない点多々あると存じますが、教室員のため、教室運営のために精一杯頑張っておりますので、本年も何とぞご指導、ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 宮崎大学整形外科 同門会奨励賞を受賞して

関本朝久

この度は栄えある第一回宮崎大学整形外科同門会奨励賞を受賞させて頂き誠にありがとうございます。身に余る光栄と大変恐縮致している次第でございます。

現在、RAの治療法としまして新たに生物学的製剤が世界で注目を浴びてきておりますが、今回の研究が、近い将来RAの治療に応用されればと考えております。

今回の受賞に際しまして御推薦下さいました帖佐教授ならびに同門の先生方に深謝致しますとともに、これまであらゆる方面から御指導御支援下さいました帖佐教授、田島名誉教授をはじめとします諸先生方に深く感謝申し上げます。

Effect of Direct Angiogenesis Inhibition in Rheumatoid Arthritis Using a Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor 1 Chimeric Protein  
Tomohisa Sekimoto, et al. J Rheumatol.29:240-5.2002.

### ABSTRACT

Objective. Rheumatoid arthritis (RA) is a chronic inflammatory disease characterized by invasive synovial hyperplasia leading to

progressive destruction of joints.

Therapeutic management of this disease remains empirical. In the present study, we evaluated the effect of direct angiogenesis inhibition in synovium of patients with RA, using a soluble vascular endothelial growth factor receptor 1 (VEGFR1) chimeric protein.

Methods. Dispersed cells from synovial tissues of active RA were cocultured on OP9 stromal cells. The control synovial tissues were obtained from patients with injury of the anterior cruciate ligament. Chimeric protein (30 $\mu$ g/ml) of the extracellular domain of VEGFR1 fused to the Fc portion of human IgG1 (VEGFR1-Fc) was added to culture medium. After 10 days, the cells were stained with anti-CD31 antibody and anti-Tie-2 antibody. Results. The endothelial cells from active RA patients had high angiogenic growth capacity, compared with those from control donors. Proliferation of these endothelial cells was strongly suppressed by VEGFR1-Fc. Quantitative analysis revealed that

VEGFR1-Fc inhibited angiogenesis in a dose-dependent manner.

Conclusion. We showed that VEGFR1-Fc is able to suppress angiogenesis in rheumatid synovium, suggesting that direct inhibition

of angiogenesis activity could serve as a novel therapeutic strategy to prevent progressive synovial hyperplasia and inflammatory reactions in active RA.



## 病院紹介

N T T 西日本九州病院

飯 干 明

当院はベッド数203床で、当科以外の診療科は外科、内科、眼科、皮膚科、婦人科、麻酔科、歯科があります。内科は血液内科、肝臓消化器科、循環器科、呼吸器科、代謝内科と細分化、専門化しており、今年4月から腎臓内科も新設予定で更に充実します。

外来は月～金曜日の午前中2診と水、金曜日の午後1診で行っています。平成18年度当科1日あたり外来患者数は平成19年2月の時点で月間平均1161人、1日平均57人でした。

病棟は当科、眼科、皮膚科の3科が同じ病棟で43床を当科18床、眼科14床、皮膚科7床、共用4床で運用していますが、眼科が白内障、緑内障に加え角膜移植や眼球摘出などの症例が増加してきたことと、1部屋（4床）を重急性病床としたことより、稼働率が96～100%とフル稼働の状態です。3科とも他の病棟に分散せざる得ないことが多くなってきています。今年に入り他の病棟もベッドコントロールが困難となってきており、病院としては嬉しい悲鳴ですが、より効率よく運営するために病床運営管理統括者を選任するなど、対応に追われています。平成18年度の当科1日あたり入院患者数は計画17人、実績18人でしたが、日整会認定施設基準改定もあり、4月から当科20床

確保しました。

手術は原則火、木曜日の午後となっていますが、緊急や他科手術との兼ね合い（手術室は3室、麻酔医は常勤1人）をみてそれ以外にも行うことが多いです。今年度手術症例数は3月予定手術を含め94例です。（主なものとしてはTKA 8例、THA 5例、人工骨頭9例、CHS 9例、ITST 3例など。他に下肢（大腿、下腿、足趾）切断、四肢骨折に対する骨接合術、良性軟部腫瘍摘出術、膝関節鏡手術、手根管開放術、腱鞘切開術、足関節外側靭帯縫合術、生検などでした。Depuytren拘縮手術とRAのボタンホール変形矯正手術に関しては大学の矢野先生に大変お世話になりました。）人工関節、人工骨頭（大腿）、CHSに関しては、術後痛みの軽減、術後早期リハビリ開始が可能、結果在院日数短縮のメリットより、MISに取り組んでおります。今年に入り2月までにTHA 3例、TKA 2例、3月以降の予定でTHA 4例、TKA 2例と徐々に増えつつあります。

熊本市内には整形外科医師常勤5人以上の中規模病院（熊本大学附属病院、国立病院機構熊本医療センター、熊本市立市民病院、赤十字熊本病院、済生会熊本病院、熊本中央病院、熊本整形外科病院、熊本機能病院など）が多いこ

と、当院は救急指定病院ではないこと（病院の capacity から救急指定は今後も厳しい）、伊勢院長は病院経営に御多忙で当科臨床は実際 2 人とマンパワーが圧倒的に不足していること、他科との兼ね合いなどの理由から、当科割り当てベッド数、手術症例数は少ないですが、フル回転の状態です。現在、当院も D P C 導入に向け準備を進めていますが、当院の病院指針である「高度医療提供（より専門化）」と、「地域に根ざした医療」に準じ地域住民のための病院として機能するという、半ば相反する目標を達成しつつ、また平成 13 年に取得した病院機能評価機構認定後、初回の再認定を平成 18 年にクリアしましたが、今後更に機能評価内容はバージョンアップするのは確実に、こちらの対策も行いつつ、当院長年の念願である収支相償、黒字達成を果たすべく暗中模索している状況です。

伊勢先生は来年 3 月で定年退職となりますが、

病院経営はもとより社会保険審査、労働基準監督署での労災認定と多忙な毎日を送っておられます。

勝島先生はスポーツ（する）ドクターを実践すべく得意のバドミントンに励んでいます。

私の近況としましては、昨年 3 月父の 13 回忌前日に母が交通事故で脳挫傷、左肩甲骨骨折を受傷（潤和会記念病院の脳外科有川先生と整形外科甲斐先生、朝倉先生にお世話になっております）、祖母が認知症発症、また狭心症のためステント留置（医師会綾部先生にお世話になりました）とまさに大殺界ど真ん中でした。年末年始にかけては長男の私立中学入試のため、学生以来の家庭教師、自分の日本リウマチ学会専門医試験の勉強と慌しく過ぎました。

以上、とりとめもない病院紹介となったことをお詫びしつつ、筆を置かせて頂きます。



## 球磨郡公立多良木病院 近況報告

浪平辰州

公立多良木病院は熊本県とはいえ、えびの市、西米良村、須木村、椎葉村などと隣接した球磨郡の多良木町にあり、約5万人の医療圏をカバーしている病院です。実際、西米良、椎葉村からの患者さんも非常に多く、県外というより宮崎の端で勤務している感じのする病院です。病院の歴史は古く、明治12年設立され、昭和59年現在地に新築移転し、この地域の基幹病院として、僻地医療拠点病院の指定も受けたこの地域には無くてはならない病院となっています。昭和59年より整形外科は宮崎大学より派遣が始まり、今日まで歴代の先生方の尽力の上に約23年間の歴史が刻まれています。病床は199床で、整形外科の入院患者数としては平均40～50人程度、科別では常にトップです。整形外科の外来患者数は平成18年度で延べ27,337人、1日平均111人となっています。手術症例は外傷を中心に年間300例前後を行っています。麻酔科がないので全身麻酔も自分達で行わないといけません所幸当科にローテーションで来られる先生方は麻酔科研修を終えられた先生が多く、格段のトラブルもなく済んでいます。医局のご配慮に深く感謝しているところです。今後も何卒よろしく願います。

当院では平成20年度からのDPC移行にむ

けて本年4月より準備段階に入っています。医局員、同門会員の先生方もご経験済とありますが後方支援病院のない当院整形外科のような科ではDPCほど辛い制度はなく、最近の回診の私の仕事は行き先が決まっているか、家族の介護力はどうかなど入院したその日から退院のことを毎日繰り返し言い続けることです。また病院全体の仕事として整形外科には院内クリニカルパス委員会と院内褥瘡委員会の主宰を任されています。整形の仕事の合間にやることになり大変ですが病院全体の中で存在意義を増すためにはそれなりに汗をかかないといけない状況になってきています。

さて今年秋より病院は病棟を中心に改、増築予定でこれまで当院で仕事をされてこられた先生方のご存知と思いますがやっと、やっと整形外科専用病棟ができることになると思います。MRIもやっと整備されることになり不便さが解消されそうです。整形外来も現在の透析室に引越す予定で現在よりかなり広くなります。(ローカルすぎました、すいません。おわかりになる方だけ一緒にぜひ喜んでください。)

とにかく、球磨の地は年中朝方の霧が深く(特に秋から冬)、喘息持ちの先生にはきついです。近郊にゴルフ場も3つありゴルフが趣



味の先生には便利な所です。霧もえびのの長いトンネルを抜けた途端雲海が見えてきます。早朝見えますからぜひ一度はお試してください。また近くの一房ダム周囲の桜は3月末が見ごろで毎年花見をするのが恒例になっています。球磨川、川辺川では漁業権を購入すれば鮎つりもでき、焼酎は米焼酎が名産でイモ党の方には物足りないかもしれませんが飲みやすくて宴会でも

だいたいみなさんビールのあとには米焼酎を飲まれるようになります。

帖佐教授、医局の先生方の暖かいご理解で遠隔地にも拘わらず3人体制を維持していただいております。そのご厚情を裏切らないように今後も当整形外科の発展に皆で努めていきたいと思っております。皆さん、これからも多良木をお忘れなきようお願いいたします。



## 渡辺整形外科病院

### 工藤 勝 司

当院は、初代医局長である渡辺雄先生が、昭和57年、縁もゆかりもない前原市に（当時は田んぼしかなかったそうです。）渡辺整形外科医院として開院され、昭和61年病院となり、平成12年10月に新築移転し現在に至っております。前原市は、福岡市の西に隣接しており、最近九州大学の移転も始まり人口も徐々に増えつつあり、今後益々、発展していくものと思われれます。医局からの出向は平成6年の大田先生から始まり、以後、谷島—長田—野中—本部—石田—工藤—野辺—河原—池尻—岡田—海田—松元と各先生には本当にお世話になりました。どの先生も、患者様から慕われ、福岡の町を満喫され良い思い出を作ってくれたと思います。非常に良い人材を派遣して頂きました田島前教授、帖佐教授ならびに医局の先生方には深く感謝しております。

簡単に、病院の紹介をさせていただきます。現在、病床数は40床で、平均1日外来数230人、月手術件数25～35件といった状況です。常勤の整形外科医3人、麻酔科医1人で9時～18時まで外来—手術—外来—当直と大変忙しい毎日を送っております。手術症例はどうしても外傷が多くなりますが、脊椎疾患（MED中心）、人工関節も徐々に増えてきております。

また、昨年より、美容形成部門を立ち上げ、レーザー治療、脂肪吸引等も可能となり、新しい領域にも力を入れています。詳細は、ホームページでご確認下さい。

若い先生には、整形外科医として必要なことは、ほぼ経験することができ、また麻酔医も常勤していますので麻酔の勉強も可能ですし、希望されれば美容の勉強もできますので研修されるには、大変良い病院と思います。プライベートでは、ゴルフ好きの先生は近隣に5つのゴルフ場があり、特に、当院から車で3分のザ・クイーンズヒルC.C.は日本プロも開催された非常に良いコースです。買い物好きの先生は天神まで30分、夜の町が好きな先生は中洲まで35分と非常に立地条件に恵まれております。（サーフィンが好きな先生は、あの木村拓哉もお忍びでくるスポットがあるようですが、私は海水が嫌いなのでよくわかりません。詳しくは松元先生にお聞き下さい）

以上、思いつくままに病院紹介をさせていただきました。最近、糸島のスタリオンと言われた渡辺先生も多少お疲れモードですので、是非とも、若い元気のある先生が1人でも多く当院に来て頂いて一緒に仕事してくれるのを楽しみにしています。



## 熊本市民病院麻酔科 研修近況報告

小島 岳 史

「帖佐君は元気でやっとなるね——？」が最初の面接で、かの有名な尾方先生に聞かれた質問でありました。その一言で、この研修の歴史の重みと尾方先生の偉大さを両方感じることができ、熊本での麻酔科研修に対する緊張感が高まったのを覚えています。

その名物尾方先生も今月いっぱい（今日は3月29日）定年に伴う退職となります。先日関係者あげての退職祝賀会が開かれ、宮崎からも20人の参加者があり総勢200人での盛大な会となりました。

ちょうど私が50人目の受け入れということで、25年も前から研修を受け入れていることになります。25年前といえば、まだ私は3歳です。

熊本市民病院は文字通り市民のための公立病院で、どのような症例でも断ることができないようです。救急車の受け入れも同じで、自分が当直のときは泣きそうになります。そのおかげかどうか分かりませんが、年間4000例以上の多岐にわたる分野の麻酔症例があり

ます。6ヶ月の研修の間でだいたい一人180～230例程度の症例をこなしているようです。もちろん整形外科の症例を多めに担当させてもらっており、麻酔の研修をしながらもしっかり整形外科のお勉強にもなっています。

宮崎大学の整形外科も今年はそうですが、熊本の麻酔科台所事情も大変なようで熊本市民病院麻酔科も慢性的な人手不足のようです。その中に研修医として行くわけですが、2ヶ月を過ぎたころから、人手が足りないので無理矢理一人立ちとなり、放置プレーになります。「血压70切っちゃったけど、どうしょ……」「脈拍30台だけど、大丈夫かな……」「出血多すぎじゃない？」「おしっこ出てないね……」などなど、日々不安と格闘しています。しかし、麻酔科の一員として、少しは戦力になっているんだ！と自己満足にひたりつつ、残り3ヶ月で学べるも

のはすべて学ぶつもりでがんばっていこうと思っております。

以上、病院の近況というより自分の近況になってしまいましたが、許してください。





## 2006年 医局旅行 (中国・上海)

厚生係

河原 勝博

2006年の医局旅行は帖佐教授はじめ新入局員6名と医局員・看護師・中国からの留学生趙さんと家族を含めた総勢24名で中国・上海に行って来ました。

### 1 ロード オブ ザ 上海

2005年の冬、現在入局1年目の先生が整形に選択で研修にいられていたとき「おまえらが入局すれば医局旅行は海外に連れていっちゃうが…」とC佐先生がおっしゃっておられ私は冗談とばかり思っておりました。その後、その殺し文句が効いたのか？選択で来られた先生方全員が入局され2年ぶりに賑やかになりました。

2006年春のある日、S本医局長から呼ばれ「今年はC佐先生の公約だから医局旅行は海外ね。9月の3連休にするからよろしくね!!」と爽やかにお願いされたのでした。早速、旅行会社にあたってみると、連休で宮崎から3日間で行ける海外とすればアジア(中国・台湾・韓国etc)でした。(C佐先生はアメリカ圏に行きたかったようですがハワイは無理ですから……)韓国のソウルはK太郎前厚生部長が企画され一昨年行きましたので考案から外しました。そうしている内に福岡経由で北京に行く予定が固まりつつあったある日、C佐先生から呼ばれ

まして「宮日が企画して宮崎空港からチャーターで中国に行く旅行があるからすぐ聞いてみ!!」と……すごい情報力と感銘を受けつつ連絡し、日程もぴったりのためにあっさり宮崎発の中国・上海旅行に決まりました。

### 2 リニアモーターカーと ミッションインポッシブル3

9月15日、一般のお客さんと共に宮崎空港から中国東方航空のチャーター便で中国上海に向かいました。上海へは1時間40分、距離的には東京とあまり変わりません。空港から移動して商業用初のリニアモーターカーに乗って上海市内へ向かいました。地上で時速430km以上を体感しました。しかし一般向けというより



上海市内(浦東地区)



初日 外灘の遊歩道で

は観光用の感は否めませんでした。その後ミッションインポッシブル3の舞台となった上海市街地（浦東地区）をグランドハイアットの展望台から一望しました。私は映画を観ておりましたのでちょっと感動でした。上海は地震の心配がないため超高層のビルが建つ理由の一つだそうです。東京並みに地上50階以上のビルが多数見られて中国の今の勢いを感じてしまいました。その後1930年代の欧風建築物が建並ぶ外灘の遊歩道を散策しました。こちらは外国人を相手にした偽ブランド物売りつける人々が大勢いて、ついつい買ってしまった人もいたようでした。今の中国社会が成熟仕切っていない部分を感じました。夜は北京ダッグを中心とし



夜の外灘で

た料理を堪能させていただきました。出されたものでは足りずに我々のグループだけお代わりして、その食べっぷりは周りを圧倒しました。

その後、ホテルについてびっくりしたのが水道水で、黄色く濁っていました。飲めるどころか歯磨きにも使えないような感じをつくづく日本はいい国であると実感した瞬間でした。

### 3 砂糖入りウーロン茶

2日目はバスに乗って上海郊外の朱角家という上海周辺が水郷の町であったことを示す街を訪れました。石で作られた橋や建物と水路が印象的で古き良き中国を思わせました。その後上海市内に戻りシルク工場を訪ねましたが見学というよりはシルク製品の販売がメインでした。夜は街中の料理店に入り中華海鮮料理を頂きました。日本では海の魚が中心ですので川魚の泥臭さにはかなり抵抗がありました。（すし虎が恋しくなりました……）またここで注文したウーロン茶ですが、こちらでもウーロン茶はサントリーが作っているのですが紅茶と同じ感覚で砂糖が添加しているものがあり、食事には……という感じでした。夜はオプションで上海雑技を楽しみました。迫力ある演技にみんな満足しましたが、周りの観客は中国人でなく関西人が多かったのが印象的でした……。

### 4 小籠包食べ放題

3日目は上海博物館や個人が作成した庭園の豫園、魯迅公園など市内の観光施設を巡りました。昼食は豫園の会場で取りました。この日の目玉は小籠包食べ放題でした。我々はここでもまた周りの人々を圧倒する量の小籠包のお代わ



U喜先生

りをしました。新入局のU喜先生は蒸籠ごと食べておりその姿は感動的でした。その後上海のメインストリート南京東路（東京の渋谷みたいな感じ）を訪問しましたがあまりの人の多さとどこに行っているのか分からず、1時間ほどさまよって迷子にならないようにするので必死でした。その後はオプションで初日に訪れた外灘の浦江のナイトクルーズで、水辺から見る浦東のビル群の夜景は圧巻でかなり外国人を意識したライトアップでした。その他、街へ繰り出した若手もいたようでそれぞれ最後の上海の夜を楽しみました。



ナイトクルーズ

## 5 スターバックスコーヒー

最終日は空港に行く前に、上海の外国人が集う洋風の町並みの新天地を訪れました。夜はバーなどがありにぎやかな街で飲食などの料金は東京並みの設定だそうです。訪れた午前中はひっそりとしておりました。ここで飲んだスターバックスコーヒーとサンドイッチがこの旅行で一番おいしかった食べ物だったように思えたのは私だけでしょうか？ その後、お昼に空港に到着しチャーター便で宮崎へ戻り、みんな無事に3泊4日の医局旅行を終えました。

今回、隣の国でありながら多くの違いがあり、また経済成長著しくオリンピックも行うということで溢れんばかりのエネルギーを感じた旅でした。

最後にこの医局旅行に関して関連病院の先生方ならびに同門の先生方にはご迷惑をおかけしましたことをこの紙面をお借りしてお詫びいたします。また大学に残っていただいた先生方にも感謝しております。本当にありがとうございました。



新天地

# 祝 日本整形外科学会 親善野球大会二連覇

一軍キャプテン

関本朝久

平成18年5月21日、田島名誉教授により約26年前に創設された我らが宮崎大学整形外科教室の野球チームが、遂に日本整形外科学会親善野球大会の全国二制覇を成し遂げることが出来ました。これは一重に今まで御協力頂きました多くの皆様方のお陰だと心より深く感謝申し上げます。ただでさえ当直のやり繰りが大変なのに私達を野球大会に気持ち良く送りだして頂いた諸先生方の御支援、御協力に何より感謝申し上げます。いつも思うのですが、野球大会の勝利は教室員全員での勝利です。私はキャプテンとしてこの機会に恵まれ、チームメイトに胴上げしてもらったことを生涯忘れることはありません。

平成18年の日整会全国野球大会は5月18日から21日の日整会期間中に横浜を中心に開催されました。初の全国二制覇を目指して例年通り2月より週2回、土曜早朝、日曜夕方の練習を開始しました。2月の朝練は満月の光が眩しかったです。昨年の大会は、ディフェンディングチャンピオンとしてかなりのプレッシャーがありました。総勢15人で臨むことができました。私のキャプテンとして3回目、そして最後の日整会大会でしたので、それまでの経験を生かして、大会前は多数の練習試合を消化しました。宮崎サンマリノスタジアム、生目の杜アイビススタジアムで練習試合ができたことはいい思い出になりました。また例年気にしてい



祝 日本整形外科学会親善野球大会二連覇  
野球大会の勝利は教室員全員での勝利です

ることなのですが、シートノックでのキャッチャーフライもほぼ決められるようになっていました。このように昨年は例年になく準備を整えて日整会野球大会を迎えることができました。

日整会野球大会は全国の8ブロックの代表の16大学によるトーナメント戦です。前夜祭では毎年懇親会と組み合わせ抽選会が行われます。昨年も各大学のかくし芸が催され、我がチームは新戦力の樋口先生、比嘉先生、菅田先生、福田先生達扮するオルソレンジャーが会場を大爆笑の渦に巻き込んでくれました。かくし芸は間違いなく全国優勝でした。これで勢いが付きました。その大爆笑の後で抽選会も行われました。1回戦は、関東代表の筑波大学でした。我々は10回目の全国大会で、1回戦で止まるわけにはいきません。昨年の全国大会は、何としても全国連覇を目標に15人全員一丸となって臨みました。

1回戦：筑波大学（三橋-福岡）6-0

初戦は雨で足場はぬかるんでました。この試合は三橋先生を先発にしました。打線は4番松元先生のホームランが飛び出すなど、中盤4回裏に一举4点を挙げ、投げては三橋先生の完封劇で6-0で勝ちました。初戦は三橋先生ひとりで投げ切ってもらって、投手陣の負担が少しでも軽くなったと思います。

筑波	0	0	0	0	0	0	0
宮崎	0	1	1	4	0	x	6

2回戦：奈良県立医科大学  
(松岡-福岡) 4-1

2回戦の相手は昨年3位の奈良県立医科大学でした。先発はエース松岡先生で臨みました。試合は序盤は投手戦で松岡先生が踏ん張ってくれました。ようやく4回裏に三橋先生のホームラン、そしてスクイズで2-0とリードする展



大活躍！ 我らがオルソレンジャー!!

開でした。しかし終盤相手の粘りで1点差に迫られ、尚もノーアウトで同点のランナーが出塁していました。ここで松岡先生の牽制で相手の流れを断ち切りました。最終回は連打でダメ押しの2点を挙げ、時間切れで勝利しました。私はこの奈良医大の粘りを振り切れた時点で、優勝を強く意識しました。

奈良	0	0	0	0	1	1
宮崎	0	0	0	2	2	4

準決勝：東京大学

(矢野・石田・三橋-福岡) 6-3

早朝の豪雨でナイターに順延になりました。皆で水浸しのグラウンド整備をしてからの試合でした。2連覇の為になんとしても勝って決勝に駒を進めなければなりません。対戦相手はそれまで東京女子医大、山口大を共に零封で破って波に乗っている主管校の東京大学でした。この試合は矢野先生を先発にしました。序盤に打線が爆発し2回裏に一举6点を挙げ6-0とリードしました。その時点でいきなり石田先生にリリーフをお願いしました。突然の交代で準備が間に合わず申し訳ありませんでした。東大の粘りで中盤に追い上げられる展開になってしまいました。最後は三橋先生に抑えてもらい6-3で勝利しました。

東京	0	0	0	3	0	0	3
宮崎	0	6	0	0	0	x	6



決勝：金沢大学（松岡・矢野－福嶋） 7－6

決勝戦まで来たからにはなんとしても勝って二連覇を達成したい強い気持ちで望みました。連日の雨で前夜のナイターに続いての早朝の試合で、また皆で水浸しのグラウンド整備をしてからの試合でした。この時点で皆の疲れはピークだったかもしれません。決勝戦の相手はこれまで全国大会で3連敗を喫している金沢大学でした。3年前の準決勝で金沢大学に延長戦で敗れた日にキャプテンになった私は、なんとしても金沢大学に勝って全国制覇を達成したいと思っていました。私のキャプテンとしての最後の試合は全国二連覇のかかった試合で、絶好の対戦相手でした。

決勝戦はもちろんエース松岡先生で臨みました。この試合は初回に先取点を取られましたが、その裏直ぐに逆転し、2回にも追加点で4－2と押し気味で試合を進めていました。しかしダメ押しができず、中盤は三者凡退が続きました。そして2点リードしたまま最終回の7回表となりました。最終回も1アウトランナー無しまで追い詰めました。バックネット裏に優勝旗が準備され、それが目に入ってきました。あと2アウトで二連覇です。しかしながら、そこから金沢大学の強烈な粘りにあい、なんと長打などで同点に追いつかれてしまいました。同点で矢野先生にリリーフをお願いしました。ストレートはかなり走っていたのですが、金沢大学の勢いを止められず、さらに長打で追加点を許し、逆転を許してしまいました。最終回1アウトから2点差をひっくり返され、金沢大学からの勝利



エース松岡先生の力投

が、そして優勝が逃げていった感じがしました。バックネット裏の優勝旗はるか遠くに見えました。二連覇は甘くはありませんでした。しかしながらここであきらめる訳にはいきません。相手はもう優勝気分ですがまだ裏の攻撃が残っています。最終回の、そして私がキャプテンとしての最後の攻撃は打順良く1番安藤先生からです。まずセンター前ヒットで出塁。2番有住先生は内野安打でノーアウト1・2塁になりました。

1アウト後、4番松元先生はフォアボールで満塁。2アウト後に6番福嶋先生の打順です。

ここで2ストライクまで追い込まれましたが、よくフォアボールを選んでくれて1点差まできました。いよいよ逆転サヨナラの場面で次は7番石田先生です。いきなり2－0と追い込まれましたが百戦錬磨の石田先生です。粘って5球目、なんと起死回生の右中間を抜ける

逆転サヨナラ2ベースヒットを打ってくれました。全国二連覇を決めた石田先生の1本です。とうとう全国二連覇を達成しました。この試合は私の球史に残る勝利でした。その瞬間それまでのいろいろな事が思い出されました。そしてそれまでのいろいろな事がこれで報われたような気がしました。試合直後に田島先生、帖佐先生を胴上げ出来て本当に感動しました。大優勝旗は前年よりもずっしりと重く、これまでの想いが詰まっていると感じました。

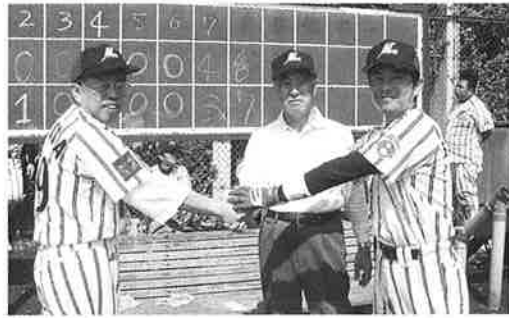
金沢	2	0	0	0	0	4	6
宮崎	3	1	0	0	0	3 x	7

平成15年のこの大会の準決勝で金沢大学に敗れた日にキャプテンになって以来、3年間本当にありがとうございました。最後はその金沢大学に勝って終わることができました。これまで田島教授、歴代キャプテン、そしてチームメイトが築き上げて来たすばらしい伝統を汚すことのないよう精一杯がんばりました。私は3年間キャプテンとして、3年連続全国大会出場、悲願の全国初制覇、そして二連覇と皆さんのお蔭でこの上ない結果を残すことができました。3年間の公式戦通算成績は17勝3敗でした。また3年間、皆私のサインに首を振ることなく



激戦の末の二連覇達成  
お疲れ様でした

従ってもらって本当にありがとうございました。叩きつけるバッティングと全力疾走の全員野球を心がけてきました。今となってはそれがよかったのかも知れません。それから自分のデザインで14年ぶりにユニホームを製作させてもらったことはいい記念になりました。そして河原先生、スコア付けや皆の移動の世話など本当にありがとうございました。河原先生のおかげで私は試合に集中することができました。そういえば今大会のシートノックでのキャッチャーフライは1本目でそれまでになく高く決めることができ、そして試合前の先攻後攻ジャンケンも4連勝でした。昨年の大会は抽選会からすべてにおいてツキがあったようです。最後になりましたが、ただでさえ当直のやり繰りが大変なのに



帖佐教授、田島名誉教授、私の勝利の握手

私達を野球大会に気持ち良く送りだして頂いた諸先生方の御支援、御協力に心より感謝申し上げます。いつも思うのですが、野球大会の勝利は教室員全員での勝利です。今後ともいろいろと御迷惑をおかけすると存じますが何とぞよろしくお願い申し上げます。今後はこの二連覇にうぬぼれることのないよう、改めて気を引き締めて行きたいと決意いたしております。今後はあの駒大苫小牧高校やタイガーウッズもあと一步のところまで成し得なかった前人未踏の三連覇を目指して、安藤先生にキャプテンを引き継いで頂きます。さらにレベルの高い野球に進化していくと確信しています。本当に3年間ありがとうございました。最後になりますがこの度の二連覇におきまして、全国制覇記念会を企画して頂きました同門会の先生方に心から御礼申し上げます。



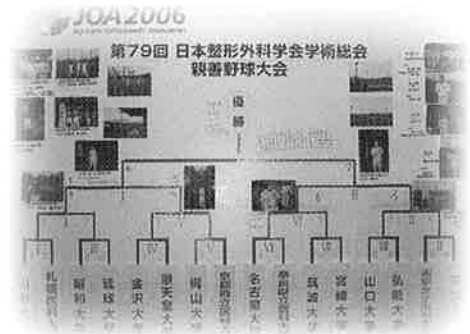
帰りのバスの中 全員で乾杯



金沢大学のみなさんと記念撮影



永遠の4番打者 松元先生



激闘を物語るトーナメント表



逆転サヨナラツーベースヒットを打った  
石田先生(右)、帖佐教授と



決勝戦最終回の攻撃 2点差あってもゲーム  
セットまで決してあきらめないようにと  
私のキャプテンとしての最後の円陣



私はこの瞬間を  
生涯忘れることはありません



## 第49回西日本整形外科 親善野球大会

一軍キャプテン

安藤 徹

平成18年7月30日山口県宇部市においてあの駒大苫小牧さえ成し遂げることができなかった夢の全国大会3連覇へ向けての物語が始まった。田島名誉教授が10数年前より蒔いてきた種が帖佐教授のもとでようやく芽を出し、この2年は5月（日整会親善野球大会）になると一番見事な輝きのある花を咲かせてきた。全国3連覇に向けて今回の西日本野球大会からは前一軍キャプテンである関本医局長より新キャプテンとして重責を引き継ぐことになり、まだボールの见えない2月から週に2回大学のグラウンドでつらく厳しい練習（早起きが?）を重ね、ようやく今回その力を発揮するときがきた。九州ブロックはここ数年、強豪大学が数を増し、全国大会出場資格を得ることができる決勝まで勝ち進むことが非常に厳しくなっている。前夜祭のくじ引きの結果、我が宮崎大学は決勝まで進めば計4試合を戦わなければならないハードスケジュールとなった。

1回戦：大分大学（三橋—福岡） 8—0

初戦は過去に何度も対戦歴のある大分大学であった。先発9人中8人が宮崎医大準硬式野球部出身（残り1人はサーフィン部の4番松元先生）とベストメンバー?で試合に望んだ。今回

キャプテンの大役を仰せ付かった自分が入局した年（平成7年）の西日本親善野球大会において自ら投手を務め延長戦の末敗戦を喫してから一度も負けたことのない相手である。その頃のメンバーの顔ぶれはほとんど見られないものの気を引き締めて戦った。初回到三橋、黒木浩史先生の長打を含め打者一巡の猛攻で5点を先取、投げては三橋が完封、8—0で完勝した。

2回戦：山口大学（松岡—福岡） 4—2

この2回戦からは強豪大学との戦いが続く。先発の松岡は先取点獲得後も粘り強い投球を続け、5回までは相手打線を0点に封じた。2—0で迎えた6回表、疲れの見えるエース松岡は相手のクリーンナップに3連打を許し、2—2の同点に追いつかれた。重苦しいムードで迎えた6回裏もすでにツーアウトランナーなし。ここで5番小藪が3塁打を放つ。次のバッターは強打者の石田。去年より古傷のO.A.膝が回復、久しぶりチームに復帰した大砲である。何とかヒット1本を、と皆が祈る中でとんでもない光景を目の当たりにする。な、なんと相手投手が振りかぶって投げようと動作を開始した瞬間、何を思ったのか突然小藪がホームへ走り出したのである。キャッチャーのタッチをうまくかわ

しセーフ!ホームスチールである。テレビや漫画などではよく見ることはあるが、実際目の前で起こったのである。ベンチ内は静寂からにわかには歓喜へと変わり小菌を手荒い祝福で迎えた。その後相手投手が気落ちしたのは言うまでもなく石田、福嶋の連続2塁打で追加点をもぎとり、4-2でなんとか競り勝った。

準決勝：福岡大学（矢野先生-福嶋）3x-2

この試合は一言で言うならまさにDramatic!というべきであろうか?順調に序盤得点を重ね制限時間も差し迫った最終回の5回表、好投していた先発の矢野先生が相手打線につかまった。ヒットを重ねられ、また粘り強く打線を継がれ、2-2の同点に追いつかれる。一打逆転という状況まで追い込まれたが、何とか同点に踏みとどまった。その裏自分たちが点を入れなければ非情にも勝敗はじゃんけんで決まってしまう。2回戦以上に追い込まれた。初めて負けを覚悟した。先頭打者は1番バッター、三橋。最初の2試合はキャプテン自ら先頭打者を務めたが、気合いが空回り、凡打を重ねたためこの試合は打順を変更していた。「何とか1番の三橋が出塁すれば……」と考えていたその瞬間、三橋の打ったボールは快音とともに勢い良くレフト線方向に飛び出した。見る見るうちにボールは小さくなり、背走する野手のはるか上を過ぎ、レ

フトフェンスを超えて消えていった。初めて経験するサヨナラホームラン!!全国大会出場決定!夢をつないだ一打となった。皆が出迎えたホームベース手前で、いつの日か西武の秋山が見せたバク転もどきで喜びを表現した三橋は言うまでもなくヒーローとなった。

決勝：琉球大学

（矢野先生・安藤・池尻-池尻・福嶋）5-3

興奮が冷めやらぬうちに因縁の相手、琉球大学との決勝が始まった。ここまでくれば気楽に、と思いつつも、キャプテンである自分には欲があった。やはり優勝したい、負けて苦手意識は作っておきたくない、その思いは全員同じである。初回より近年にない連続長打の猛攻で4点を挙げると、かつてのエース達が阪神タイガース顔負けの投手リレーで相手を圧倒、久しぶり真紅の優勝旗を手にする事ができた。

全国大会の予選となるこの夏の大会を無事優勝することができ、次回の日整会で全国3連覇を目指すことになりました。ここまできた以上は優勝あるのみです。一生懸命がんばりたいと思います。今後も大学を含め関連病院先や同門の諸先生方にはいろいろ御迷惑をおかけすることと存じますが、御協力、御支援の程何卒宜しくお願い申し上げます。



## 祝 全国大会初出場！ 日本整形外科学術集会 親善サッカー大会

サッカー部主将

山本 恵太郎

平成18年5月17日から横浜で開催された第79回日本整形外科学術集会で、第2回親善サッカー大会も開催されました。第1回は予選敗退しましたが、今回は予選2試合で得点9、失点0の文句の付けようのない2連勝で堂々予選突破し本大会初出場を決め、ユニフォームも新調し参戦してきました。

- ・40歳以上：帖佐教授、園田、樋口潤、野中
  - ・30歳代：山本、大倉、森、樋口誠
  - ・20歳代：小島、比嘉、菅田、福田
- の計12名の参加でした。

ルールは、8人制・ハーフコート・20分ハーフ制・年齢制限（30歳以上が4人、そのうち最低40歳以上が1人常時出場）・フリー交代



全国初戦は悔しい逆転負け  
横浜の冷たい春雨は涙雨へ



帖佐教授の楯の労  
全国へいざ出陣

制などの特別ルールの元に行われました。

1回戦で九州大学と対戦し、園田・樋口潤先生のゴールで2-0とリードするも、後半息切れしそこから逆転され2-4で敗退しました。帖佐教授も選手登録しユニフォームを着用されていましたが、接戦のため出場することが叶わず、結果ともども残念でありました。しかし、全国の経験を積み、また早々と敗退したことにより学会にもしっかりと参加でき非常に有意義な4日間でありました。ご支援誠に有り難うございました。

今回のスタメンは40歳以上3名、30歳代4名で20歳代はGKの小島だけと、ルールの年齢制限を充分以上に満たして、悲しいかな平均年齢だけならダントツのトップだった事と思います。その割には健闘してきたと思いますが、全国に出られたら、次は初勝利、そして優勝をと欲が出ます。是非若手に期待

し、二連覇した野球部に少しでも追いつけるよう本業ともども頑張りたいと思いますので、今後とも宜しくお願い致します。

《速報：第80回日本整形外科学術集会  
親善サッカー大会予選》

平成19年度日本整形外科学術集会親善大会サッカー大会への出場をかけ、平成19年3月11日に大分市西部広域スポーツ広場で行われました。

今回も大分大学・鹿児島大学と争いました（総当たりリーグ戦にてトップ1校に全国大会切符をゲット）。

結果は、①宮崎0-0大分

②宮崎0-1鹿児島

③大分2-1鹿児島と

宮崎大学は1分1敗で残念ながら全国大会出場権を逃しました。

40歳代：園田、樋口潤、野中、山本

30歳代：大倉、森、公文、樋口誠

20歳代：小島、比嘉、菅田、福田、河野の計13名の参加でしたが、今回は、3月というのに気温は寒い上、風も非常に強く、おじさん軍団には非常に厳しい条件での戦いでした。2試合とも押しはいましたが得点を挙げられず残念な結果に終わりましたが、2試合とも接戦の中参加者全員がプレーでき、非常に楽しい一日で他校とも親睦を深めることができました。

メンバー詳細や写真などはHPへアクセスして是非観てください。



攻撃カルテットも今大会は残念ながら不発  
寒風と砂のグラウンドに泣く



影ボス 前日は絶好調も……

(宮崎大学医学部・大学院医学系研究科

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/>

→宮崎大学整形外科

[http://www.med.miyazaki-u.ac.jp](http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/ortho/default.htm)

/ortho/default.htm

→課外活動→サッカー部)。

今後とも宮崎大学医学部整形外科サッカー部へのご支援・ご出場のほど宜しくお願い致します。



第3回全国大会予選九州C  
宮崎V S 大分V S 鹿児島  
前列は不惑組 次回は後列の若手に期待



## 同門会ゴルフ大会を 振り返って

帖 佐 悦 男

同門会ゴルフ大会で優勝させていただき有難うございました。本来であれば、優勝にいたったプレーを振り返り回想したことを記載するのですが、ほとんどプレー内容は記憶に残っていませんので実際あったことは、割愛させていただきますことをご了承ください。

久しぶりに優勝できた要因として以下のことがあると思います。1.一緒に回ったメンバーに恵まれた（渡辺雄先生、平川俊一先生、前原尉先生）。有難うございました。2.一ホールの中で一打は良いショットがあったのかな。3.偶然が重なった。多分この要因が最も大きいと考えます。ボールを打った場所が恵まれておりグリーン上ではショットをした近くにピンが立っていた。ダブルペリアに恵まれたなど。4.まだ体力が残っていた。（ラウンドする際は

運動の意味でカートに乗らずに歩くようにしていますが、運動してない割には脚力が維持されている。多分大学で階段を使用するように少しは心がけているからかもしれませんが。）5.記憶は確かではありませんが、優勝候補者の参加が少なかったのかもしれない。

この十数年間は、殆ど練習もせず年に数回のコンペのみ参加してましたのでスコアがあがりようもなく、またゴルフをしようと思った時は仕事や体調の関係でできずにいました。これを機会に十何年前に購入したゴルフセットを買い替え、何とか練習をして月に一度ぐらいメタボリックシンドロームの予防・治療のためにも運動の意味でゴルフをする心積もりですので、よろしくお願い致します。





## 第9回同門会テニス大会

ふくだ整形外科

福田 健 二

「皆さんすいません！優勝させていただきました。」というのが正直な感想で、胸を張って「優勝したぞ！」とは到底言えない内容でした。

平成18年11月23日（勤労感謝の日）、当日は天気予報では雨だったので、幹事の神菌先生（前年優勝者）が気をきかしてシーガイアの室内コートでの試合となりました。

試合開始直後の第一試合目、いきなり0-4の試合（いわゆるタコ）で「今日は終わった」と自分の中では完全に緊張の糸が切れていました。

その後は気楽なテニスを楽しんで、気が付いてみれば2試合目、3試合目と勝ち越して、ポイントでは全試合勝ち越しの神菌先生がトップ、私が2ポイント差の2位ではありませんか。「あれれ！もしかして？」と思っていたら、何と最後の試合は神菌先生とのペアじゃないですか。ということは、勝てば、そのまま神菌先生と2ポイント差のまま、前年優勝者のハンディが2なので私と神菌先生が同点で並んで、年齢が一つ上の私が優勝じゃないですか。そう思った瞬間、急に緊張で体がカチカチになってしまいました。

相手は百戦錬磨の弓削先生、過去に4回優勝している松本（英）先生の強豪ペアです。

神菌先生の活躍と相手ペアのミスで何とか4

ー2で勝ち越して、私に優勝が転がり込んできたわけです。何と情けない優勝でしょうか。

以上まとめると私が優勝できたのは以下の理由によります。

1. 試合が室内だった。（私はテニススクールで週に1回は室内でやっているのでも球足の速いコートに慣れていた。）
2. 1試合目にタコで負けて、完全に緊張の糸が切れていた。（途中、気楽にやれた。）
3. 試合前に前年度優勝者はハンディを1にするか2にするか決まっていなかったが、私がジャンケンで勝って、ハンディ2と決定していた。
4. 神菌先生よりたまたま1歳だけ歳が上だった。

来年は同門会テニスが始まって10回目の記念大会になります。

幹事として大会を盛り上げられるように企画したいと考えております。残念ながら私はハンディが2ありますから、まず優勝はありませんから、せいぜい皆さんが楽しめるように裏方に徹しようと考えております。今年は桑畑先生が新たに参加されましたし、これからテニスを始めようとお考えの先生、昔やっていたりまたやりたいとお考えの先生方のご参加をお待ちしております。今回の参加者：弓削、川野、桑畑、松本（英）、

福田、神菌、尾田



## 第2回同門会 マーじゃん大会報告

国立病院機構都城病院  
税 所 幸一郎

同門会忘年会がにぎやかに開催された日の夜、第2回のマーじゃん（麻雀）大会が前回と同じ「和楽」で行われました。今回は2回目ということで前回より多くの先生方に参加いただきました。参加者は会長の河野雅行先生をはじめ18人でした。今回の準備をしていただきました江夏先生ありがとうございました。この麻雀大会は平成18年度の同門会世話人会で会長の河野雅行先生からの発案で始まっています。その会で私が同門会の麻雀大会の世話人と決まり、第1回目は私が準備をすることになりました。第1回目ということで、会場選びや参加者の確認など、直前まで開催の準備に追われ、結果は散々でした（優勝は田島卓也先生でした）。今回は準備のプレッシャーがなく、気楽に麻雀大会に臨めました。最初の半チャン（第1回戦）は私が入局した時には麻雀のオーソリティーと

いわれていました河野先生、伊勢先生と一緒にグループ（麻雀は4人1組で行います）でした。この先輩方には勝てないだろうと思い、せめて負けるにしても、後の半チャン（第2回戦）に影響が残らないようにと思い臨んだ次第でした。ところが運命のいたずらというか、第1回戦では私がそのグループでトップとなり、さらには全体でもトップでした。そして、第2回戦ではグループの入れ替えがありましたが、その第1回戦での蓄えが効いたのか、そのまま優勝となりました。最近では麻雀人口も減り、雀荘も少なくなり、麻雀をする機会がほとんどなくなりました。その分年1回の麻雀大会で同門の先生方と一緒に麻雀できることを楽しみにしています。また今年も同門会の麻雀大会が行われると思います。多くの先生方に参加して頂き、長く交友の場として続けていければと念じています。



## 第2回帖佐杯に優勝して

宮崎社会保険病院

益山松三

(どげんかして、勝たんといかん!!) と思っていたわけではありませんが、昨年4/16にレイクサイドで行われた第2回帖佐杯で幸運にも優勝を飾ることが出来ました。スコアカードを見ると3バージー、3ボギーの72でまわられたようで、ダブルペリアの隠しホールに運よくはまったこともあります。何よりご一緒していただいた帖佐教授、市原先生、花堂先生と楽しい雰囲気の中で終日まわられたことが勝因だと思っています。どのように楽しかったか？実はおぼろげにしか覚えていないのですが、4人でティーショットを打ったあと、帖佐教授は小走りですラフ、時々左ラフに一目散に先行され、花堂先生は入念なティーショットの反省や次打に向けての準備に余念がなく、定番の真っ赤なポロシャツよりも赤いオーラを出していらっしゃいました。市原先生はというと、いつも通りの優しい笑顔でフェアウェイを散歩されていたという感じではなかったかと思えます。帖佐教授とは3回目の同伴ラウンドでしたが、帖佐先生が助教時代には、林に入れても探しに行くそぶりすら見せなかった自分が、教授になられたからか、自分が少し大人になって周りが見えるようになったからなのか、少しでもトラブルの気配がするとボールを探している自分に途中で気づ

いてしまいました。自分では純粹に成長した証だと思いたいのですが、おそらく周りから見ると(助)が取れたからだろう！と突っ込まれることでしょう。帖佐杯や同門会などでは大先輩の先生方とご一緒させていただくことが多いので、スタート前は接待ゴルフ王の川野先生を見習おうといつも思うのですが、虎視眈々とベスグロを狙っているM先生(病名：腰椎椎間板ヘルニア以下柔道一直線)やA先生(病名：ルーズショルダー以下赤のカマロ)の顔を見ると、なぜか頭の中に巨人の星のテーマが流れてきて、負けたくないもんね!!とってしまいます。そういう訳で、この日もいつの間にか超真剣にプレーしていました。集中力が低下するのを防ぐ為に、グリーン上で帖佐先生のオレンジ球は見ないように心がけ、ドライバーを振り回さないように、ティーグラウンドで花堂先生の赤いリストバンドも見ないように心がけました。ゴルフの神様が微笑むようにと、市原先生の笑顔だけでも真似てみました。繰り返しになりますが、前述の負けたくないリスト(赤のカマロ&柔道一直線：決して美々津のM股先生ではありません)にだけは決して負けないようにと必死にしていたら、いつの間にか優勝していたのです。やはり、どげんしてでん勝ったっど!!の気持ち

になっていました。

大学1年から始めたゴルフですが、気が付くと15年が経過していました。マナー良く廻ることと勝負強いゴルフをすることをいつも念頭にプレーしてきたつもりですが、どちらもなかなか上手くないことばかりでした。大事な試合では自分を信じることができずに乱れ、自分の思うようなプレーが出来ないと感情的になることが多かったように思えます。特にこの2年間は結果が出せずに、過度に自分を責めたり、前向きに考えることが出来ませんでした。今年の3月くらいから（上手くないこともあるさ、俺だもの。）（OBも打つさ、俺だもの。）（3パットもするさ、俺だもの）と、あいだみ

つお風に開き直すことによって少しプレーが変わってきたように思えます。そのような時期に私の母校である都城泉が丘が、甲子園出場を果たし見事な試合を見せてくれました。卓越した守備力と状況判断の力に、ただ感動するばかりでした。いろいろなハンデを乗り越えて夢を実現した彼らのように、小さな努力をこれからも積み重ねて、精進していきたいと思えます。ですから、これからは打倒！柔道&カマロではなく、打倒！諏訪日光君（泉が丘の左腕エース）で行こうと思えます。すぐ熱くなる未熟者ですが、先輩後輩に関わらず今後ともいろいろなご指導、ご鞭撻のほどよろしく願います。ではでは。



## 新規開業に当たって

かみぞの整形外科

神 園 豊

医師会病院在職中は医局及び同門会より多大なバックアップを頂き、ありがとうございます。教室の田島先生、帖佐先生には大変お世話になりました。お蔭様で何とか平成11年1月から8年間、勤務することができました。

この度、思い立って、整形外科クリニックを開業いたしました。私は、昭和58年、防衛医科大学卒業後、海上自衛隊医官に任官し、大学病院、佐世保地区病院等勤務の後、平成元年に防衛庁を退職しました。以後約10年間、福島県会津若松市の病院で整形外科、特に手の外科、関節外科を勉強した後、平成10年、宮崎に帰郷、宮崎医大整形外科に入局させて頂いた次第です。これまでは手術に頼って患者を治療することに

専念してきましたが、今後は保存療法で如何に良く治療するかを目指したいと考えております。

平成17年1月13日の開院以来、約3ヶ月が経過しましたが、この間、不慣れで至らないことが多く、同門の先生、医師会、近くの社会保険病院整形外科の諸先生には大変な迷惑をかけており、誠に申し訳なく思っております。今後これらを改善し、地域医療に貢献したいと考えております。

花山手という清潔で閑静な住宅街に開院でき、大変ありがたく思っております。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。



## 新規開業

渡部 正一

平成4年に入局させていただきました渡部正一です。このたび、平成19年1月15日に宮崎市熊野（Aコープ木花店前）にて無床クリニックを開院させていただきました。医局在籍時は、田島先生、帖佐先生をはじめとした諸先輩方には手厚いご指導を賜り、また良き同僚や後輩に恵まれたこと、大変感謝申し上げます。

### ① なぜ開業？

長年ずっと悩んできました。結局、一番の動機は「子供の教育」を中心とした家庭の問題でした。非常にありきたりな理由で聖職たる医業に従事する者としては失格かもしれませんが、家内も勤務医（麻酔科）でお互い常に移動のリスクがあり、安定して子供と向き合ってやるためには今後この道が一番妥当であると判断いたしました。大した志も無い私でしたが、勤務医としての私を応援してくださった諸氏に対して、真に後ろ髪を惹かれる思いでありました。



### ② なぜ木花？

「できれば現在の自宅から通える場所を……」と探しました。友人は皆、「なぜ地元の延岡ではないのか？」と口々に言いました。確かにそれはもっともな事です。しかし、「地元では悪いわさを流されたくない。時々帰省して息つく場所であって欲しい」……そういうつまらない思いがありました。高校を宮崎に選んだ時からずっと描いてきたこの思いが、私を宮崎に残したんだと思っています。では、なぜ木花なのか？……海に面した小さなクリニック（TVの影響ではありません）が、わたしの長年の開業イメージでした。現在の医院は全表面していませんが（笑）、整形外科専門医としては市内最南端で、海も山も非常に近い点が気に入っています。木花地区は、高齢者の方、高所得・高学歴の方、学生さん、外国人留学生、スポーツ選手に至るまで多種多様な方々が数多くいらっしゃる土地です。そういう意味においても、わたしの勉強になる点が多いと感じておりました。別に、空港が近いからとか青島とレイクの間点だから……ではありません（笑）。

### ③ なぜ医師会から2人同時に？

誤解の無いように申し上げておきますが、帖

佐先生にご挨拶に参りましたのは私が先でした。そして、私の報告をお聞きになられた○菌先生が、その数日後に伺われた、と聞いております。でも、開院日は先生の方が2日手前でした。今でも○菌先生からは「僕の方が準備が先だったよ」と言われています。何か騙されているような気がしています(笑)。医師会員の皆様方には、大変ご迷惑をおかけいたしました。この書面をお借りして深くお詫び申し上げます。

#### ④ 尊敬すべき先輩

帖佐先生へのご挨拶には、家内と供に参りました。別に大リーグの代理人ではありません(笑)。わたしよりもしっかりした口調の家内はこういう時には頼りになりました。私の話はあまり聞いておられなかった帖佐先生も、最後には笑顔でお許しくださいました。先生のくださったお言葉の中に「どこに行っても俺にとってはかわいい後輩だ」と言う表現……今でも忘れません。今後一生、大学に恩返しをしていく所存です。

#### ⑤ なぜ電子カルテ？

一番の理由は、患者さんの待ち時間が明らかに減少することです。メーカーを選択する際に電子カルテについてかなり勉強しましたが、現時点では、当院のような単科診療所でカスタマイズが自由にできる施設ならば大変向いていると思います。私はカルテのマスター改変を毎日行っています。正確さと効率を目指して自分だけのオリジナルのマスターを作っていくことが、私の楽しみでもあります。もちろん、医療承認上改変が不可能な内容も多々ありますが、開院当初よりもかなりレベルが上がってきていると



感じています。当院の特徴としては、診察室のディスプレイとキーボードを2台設置として、わたしが患者さんと面している時には看護師に助力させていることです。電子カルテで最も悪い点とされる「患者さんの顔を見なくなる。医師の労力が過大」と言う面の改善、そして最低限のコスト増という点でも非常にいい方法だと思っております。紙カルテの時よりも明らかに患者さんに向かう時間が増えています。同時に、連携させている画像ファイリングについても、フィルム出しが不要で履歴が簡単に参照でき非常に重宝しています。簡単に角度を計測できたり、反転画像や拡大などもでき、患者さんと一緒に画像を検討できる点で大変好評です。病名漏れもかなり防げ、スタッフへの教育にも利用しています。もう一つ言うと、医師が何を考えどう治療しどうやってコストを取っていくのかと言うことをスタッフ全員が共有することができ、経営者に対する不信任感を払拭するのに一役担っていると感じております。

最後になりましたが、開業にあたり様々な面でご指導くださいました先生方、そして何かと無理を言ってご迷惑をおかけしている関連病院の先生方に対して、深く感謝しお礼申し上げます。今後とも末永く宜しく願い申し上げます。



## 入会のご挨拶

前 原 尉

この度、宮崎大学医学部整形外科学教室同門会に賛助会員として入会させていただくことになりました、前原尉(やすし)と申します。帖佐教授とは同級生として、親友として、畏友として親しくお付き合いさせていただいており、今回の入会を光栄かつ大変嬉しく存じている次第でございます。

現在私は2つの仕事をしておりまして、1つは鹿児島県日置市に於いて整形外科、内科、眼科、耳鼻咽喉科を始め12診療科の病院を中心に、医療法人及び社会福祉法人の経営者をする者であり、もう1つは鹿児島県議会議員(この3月30日に無投票にて3期目の当選をさせていただきました)であり、最近では環境生活厚生委員長として地域の保険医療福祉の充実に懸命に取り組んで参ったところでございます。

さて、南九州を取り巻く環境は医療福祉分野

を含め大変厳しい状況にあり、特に高齢化率は最も高く、高齢者の収入額は年金等を含め最も低いレベルにあります。そのことから特に私は、世界に誇る格差なき国民皆保険制度を守ると共に、地域の高齢者の、とりわけ定年後に故郷に帰りたいと願う方々の切実なニーズにお応えすることによって、若者の雇用の機会を創出し、より生き生きとした地方の時代にして参りたいと思っております。

そのためには帖佐教授を始め、同門会の皆様と親しくご交誼を賜り、ご指導を願ってやまない次第でございます。また、私も微力ながら宮崎大学医学部整形外科学教室同門会のますますのご発展にお役に立てればこの上ない喜びでございます。48歳の若輩ではございますが、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



# 平成19年度 宮崎大学医学部整形外科教室 同門会総会 議事報告

総会：H18/11/25 宮崎観光ホテル

## 1. 平成18年度（H17. 10/1～H18. 9/30）報告

### (1) 会員状況（平成18年9月30日現在）

正会員：148名、賛助会員：40名

### (2) 会員動向

正会員入会：小牧 ゆか 先生（平成17年11月16日付）

（9名） 木屋 博昭 先生（平成18年4月1日付）

近藤（大江）梨紗 先生（平成18年4月1日付）

河野勇泰喜 先生（平成18年4月1日付）

菅田 耕 先生（平成18年4月1日付）

比喜 聖 先生（平成18年4月1日付）

樋口 誠二 先生（平成18年4月1日付）

福田 一 先生（平成18年4月1日付）

花堂 祥治 先生（平成18年5月1日付）

賛助会員入会：押川 達巳 先生（平成17年12月3日付）

（3名） 藤元登四郎 先生（平成17年12月3日付）

池之上 貴 先生（平成17年12月3日付）

賛助会員退会：池之上邦彦 先生（平成18年8月31日付）

教室人事：ホームページ掲載

結婚：黒木 浩史 先生（平成18年3月21日）

近藤（大江）梨紗 先生（平成18年7月2日）

開業：谷島 満 先生（平成17年11月14日）

### (3) 事業報告

H17. 10/26：第1回役員会（ホテルメリージュ）

11/23：第8回同門会テニス大会（優勝：神蘭 豊 先生）

12/ 3：第2回役員会、総会、講演会（講師：帖佐 悦男 先生）

忘年会（ホテル神田橋）

第1回同門会マージャン大会（優勝：田島卓也 先生）

12/ 4：第14回同門会ゴルフ大会（優勝：安藤徹 先生）

12 : 同門会会則名簿発行

H18. 4/15 : 第3回役員会、新入教室員歓迎会 (観光ホテル)

7/28 : 同門会誌17号発行 (故 玉井達二 先生 追悼)

9/28 : 第4回役員会 (ホテルメリージュ)

(4) 教室支援 (留学、学会など) : なし

(5) 会計報告

平成18年度決算は監査報告があり総会にて承認された。

## 2. 平成19年度 (H18. 10/1~H19. 9/30) 事業計画・予算

(1) 総 会 : H18. 11/25 観光ホテル

(2) 役員会 : 第1回 H18. 11/9, 第2回 H18/11/25

(3) 講演会 : H18. 11/25 (講師 : 長鶴義隆 先生)

(4) 奨励賞 : H18. 11/25 (受賞 : 関本朝久 先生)

(5) 親睦行事 : H18. 11/23 第9回テニス大会

H18. 11/25 第2回マーじゃん大会

H18. 11/25 第15回ゴルフ大会

(6) 同門会会則名簿発行 : H18. 12 同門会便りは原則ホームページで

(7) 同門会誌第18号発行 : H19. 5 「女性医師の現況」

(8) 新入教員歓迎会 : H19. 4/14

(9) 教室支援 : H19. 1/20 第23回九州小児整形外科集談会

H19. 2/18 第21回日本リハビリテーション医学会九州地方会

## 3. 平成20年度 (H19. 10/1~H20. 9/30) 予定

(1) 総 会 : H19. 11/24 (土)

(2) 役員改選 (次期役員任期 H19. 10/1~H21. 9/30)



## 「地域包括支援センター」について —宮崎市郡医師会の関わり—

岡田光司

会員諸氏には余り馴染みがない「地域包括支援センター」（以下、包括と略す）について昨年度、今年度と宮崎市郡医師会の担当として関わってきました。この「包括」についての概要と宮崎市郡医師会の関わりについて、介護保険制度の動向を含めて紹介いたします。

平成12年4月に介護保険法が施行されましたが、増大する介護保険給付費の抑制のため「予防重視」の政策として、平成18年4月に介護保険制度が改正され「公正・中立の活動を建前とした地域の高齢者の包括的・総合的支援機関」として「包括」の設置が市町村に義務づけられました。「包括」は人口2～3万人に1つ設置され、保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャーの3職種が以下の業務を行ないます。

- ① 予防給付・介護予防事業のケアマネジメント業務（要支援者・特定高齢者のケアプラン作成と評価など）
- ② 総合相談支援業務（実態把握と相談支援）
- ③ 権利擁護業務（虐待防止、権利擁護）
- ④ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務（ネットワーク構築、医療機関を含む関係機関との連携・協力体制の構築、地域のケアマネジャー支援など）

宮崎市郡医師会はそれまでの「在宅介護支援センター（基幹型）」を受託してきた経緯もあり、昨年度・今年度と宮崎市より「中央地区」（人

口92,548人、高齢者人口17,140人）の「包括」の委託を受けて現在に至っています。また平成20年4月には宮崎市内に17の「包括」が設置されますが、来年度（平成20年度）はそのうちの1つ「中央西地区、檜地区」（人口44,124人、高齢者人口7,932人）を引き続き受託していく予定です。

このように宮崎市内に「包括」が着々と整備展開されつつありますが、昨年度の「中央地区」の「包括」を省みるに介護予防ケアプラン作りに追われたり、「特定高齢者」では利用が見込みより低調であり、現場はその対応にかなり混乱しました。相談・支援業務まで手が回らず、本来の「包括」が整い機能するのはまだまだこれからです。

このたびの制度改定による机上空論的かつ性急な整備には多々疑問を感じるどころです。一方、医療制度において来年度の75歳以上の後期高齢者医療制度における「登録医制」、「公的なかかりつけ医＝総合医」、「在宅療養支援診療所」などがいろいろと論じられていますが、ここでは「地域に参加する医療」が求められています。医療、介護費抑制に予断は許されませんが、宮崎市郡医師会としては地域の高齢者支援ネットワークの構築を担う「包括」と「地域医療」との連携に寄与すべきと考えています。

## 教室同門の研究業績

(2005年1月～12月)

### ◆著書

- 1) 大腿骨側の各種関節温存手術の要点  
帖佐悦男  
Knack&Pitfalls 股関節外科の要点と盲点(久保 俊一),  
p122-125, 2005
- 2) 関節鏡視下手術・関節固定術・筋解離術・coredecompressionの要点  
坂本武郎, 帖佐悦男  
Knack&Pitfalls 股関節外科の要点と盲点(久保 俊一),  
p126-128, 2005
- 3) Periacetabularosteotomyのコツ  
帖佐悦男  
Knack&Pitfalls 股関節外科の要点と盲点(久保 俊一),  
p182-183, 2005
- 4) 股関節の手術的脱臼法  
帖佐悦男  
Knack&Pitfalls 股関節外科の要点と盲点(久保 俊一),  
p222-223, 2005
- 5) 急速破壊型股関節症  
前田和徳, 帖佐悦男  
Knack&Pitfalls 股関節外科の要点と盲点,  
p78-79, 2005

### ◆原著

- 1) Medical Practice in Lumbar Sports Injuries and Disorders  
Tajima N, Chosa E  
JMAJ, 48(1): 16-19, 2005

- 2) Hemoglobin stimulates the expression of matrix metalloproteinases, MMP-2 and MMP-9 by synovial cells: a possible cause of joint damage after intra-articular hemorrhage  
Tajima T, Yoshida E, Yamashita A, Ohmura S, Tomitaka Y, Sugiki M, Asada Y, Maruyama M  
Orthopaedic Research, 23: 891-898, 2005
- 3) Study of blood metabolism and urinary excretion of chymopapain following intradiscal injection using a high-sensitivity enzyme immunoassay  
Kawano K, Tajima N, Hashida S, Ishikawa E  
Orthopaedic Science, 10(2): 206-213, 2005
- 4) 高齢者・認知症高齢者の転倒予防プログラム  
征矢野あや子, 武藤芳照, 高杉紳一郎, 立川厚太郎, 田島直也, 山本博司  
老年精神医学雑誌, 16(8): 929-935, 2005
- 5) 腰部椎間板ヘルニアに対する後側方固定術の意義と適応について  
黒木浩史, 久保紳一郎, 後藤英一, 田島直也  
整形外科, 56(7): 753-758, 2005
- 6) Biomechanical Comparison of Two Stabilization Techniques of the Atlantoaxial Joints - Transarticular Screw Fixation Versus Screw and Rod Fixation -  
Kuroki H, Goel V, Holekamp S, Ebraheim N  
Operative Neurosurgery, 56: 151-159, 2005
- 7) 股関節撮影-False Profile 撮影法(最適な足の位置の研究)-  
工藤正喜, 牛鼻健二, 押川美和, 下新原茂, 紫垣誠哉, 帖佐悦男  
日本放射線技術学会, 61(5): 691-700, 2005
- 8) ベルテス病にて手術を施行した症例の術前 MRI 所見  
関本朝久, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 前田和徳  
Hip Joint, 31: 258-261, 2005
- 9) 医療広告はどうあるべきか  
帖佐悦男  
整形外科と災害外科, 48(1): 1-1, 2005
- 10) Medical Practice in Lumbar Sports Injuries and Disorders  
Tajima N, Chosa E  
JMAJ, 48(1): 16-19, 2005

- 1 1) 人工関節再置換術における CANNULOK Revision Hip System の短期成績  
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 前田和徳  
Hip Joint, 31: 624-626, 2005
- 1 2) 寛骨臼補正手術 (Periacetabular osteotomy) の経験 進行期以降, 骨嚢胞 (1.5cm 以上) 症例  
帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 前田和徳  
Hip Joint, 31: 56-58, 2005
- 1 3) 骨盤傾斜と股関節症 Hip-spine syndrome Secondary hip-spine syndrome における骨盤・  
脊椎アライメント  
帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 前田和徳, 濱田浩朗, 関本朝久  
Hip Joint, 31: 235-238, 2005
- 1 4) 中高齢者に対する半月板切除術で改善する症状についての検討  
石田康行, 酒井健, 海田博志  
関節鏡, 30(2): 161-164, 2005
- 1 5) Evaluation of Circulatory Compromise in the Leg in Lumbar Spinal Canal  
Stenosis  
Chosa E, Sekimoto T, Kubo S, Tajima N  
Clin Orthop Relat Res., 431: 129-33, 2005
- 1 6) ペルテス病にて手術を施行した症例の術前 MRI の検討  
吉川大輔, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗,  
前田和徳  
整形外科と災害外科, 54(1): 162-166, 2005
- 1 7) 女性の膝前十字靭帯再建術施行例における術後筋力評価 再建材料による比較  
船元太郎, 帖佐悦男, 園田典生, 山本恵太郎  
整形外科と災害外科, 54(2): 247-250, 2005
- 1 8) アンケート調査による脊髄損傷患者の福祉機器の検討  
崎濱智美, 帖佐悦男, 濱田浩朗, 久保紳一郎, 黒木浩史, 鳥取部光司  
整形外科と災害外科, 54(2): 187-192, 2005
- 1 9) 再生医療としての骨切り術  
帖佐悦男  
臨床整形外科, 40(3): 229-260, 2005

- 2 0) Characterization of an exchangeable gene trap using pU-17 carrying a stop codon-beta geo cassette  
Taniwaki T, Haruna K, N, Sekimoto T, Oike Y, Imaizumi T, Saito F, Muta M, Soejima Y, Utoh A, Nakagata N, Araki M, Yamamura K, Araki K  
Dev Growth Differ., 47(3): 163-172, 2005
- 2 1) MISについて思う  
帖佐悦男  
骨・関節・靭帯, 18(4): 281-282, 2005
- 2 2) Bucolome, a potent binding inhibitor for furosemide, alters the pharmacokinetics and diuretic effect of furosemide: potential for use of bucolome to restore diuretic response in nephrotic syndrome  
Takamura N, Maruyama T, Chosa E, Kawai K, Tsutsumi Y, Uryu Y, Yamasaki K, Deguchi T, Otagiri M  
Drug Metab Dispos, 33(4): 596-602, 2005
- 2 3) 脊椎手術を施行した透析患者症例の検討  
公文崇詞, 黒木浩史, 久保紳一郎, 帖佐悦男  
整形外科と災害外科, 54(3), 563—568, 2005
- 2 4) 特発性側弯症に対する装具療法の成績—大阪医大式装具(OMC brace)を用いて—  
黒木浩史, 公文崇詞, 後藤英一, 久保紳一郎, 帖佐悦男, 田島直也  
脊柱変形, 20(1): 102-110, 2005
- 2 5) Long-term Follow-up Studies of Posterior Fusion of the Upper Spine in Rheumatoid Arthritis  
Kuwahara S  
日本リウマチ・関節外科学会雑誌, 24(2): 117-125, 2005

## ◆症例報告

- 1) 肥厚性硬膜炎の3症例  
福嶋秀一郎, 帖佐悦男, 久保紳一郎, 黒木浩史, 濱中秀昭, 公文崇詞  
整形外科と災害外科, 54(3): 558-562, 2005

- 2) 距骨滑車骨軟骨損傷に対し Mosaicplasty による骨軟骨移植術を施行した一例  
 勝瀧葉子, 帖佐悦男, 黒木龍二, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博,  
 河野立  
 整形外科と災害外科, 54(3): 448-492, 2005
- 3) 腰椎椎間板ヘルニア術後に馬尾症候群をきたした1例  
 大倉俊之, 田島直也, 後藤啓輔, 樋口潤一, 井上篤, 久保紳一郎,  
 黒木浩史, 帖佐悦男  
 整形外科と災害外科, 54(4): 710-713, 2005
- 4) 両側の内側半月板および外側半月板に形態異常を認めた1例  
 小松奈美, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗,  
 山本恵太郎, 前田和徳, 吉川大輔  
 整形外科と災害外科, 54(4): 672-675, 2005
- 5) 発症後1ヶ月以上経過した小児の環軸椎回旋位固定の3例  
 濱中秀昭, 久保紳一郎, 黒木浩史, 公文崇詞, 福嶋秀一郎, 帖佐悦男  
 西日本脊椎研究会誌, 31(2): 168-173, 2005
- 6) L5/S1 椎間レベルに椎間板嚢腫を認めた1例  
 増田寛, 久保紳一郎, 黒木浩史, 濱中秀昭, 後藤英一, 小島岳史,  
 帖佐悦男  
 整形外科と災害外科, 54(1): 56-59, 2005
- 7) 著明な硬膜外石灰沈着をきたした長期透析患者の1例  
 三橋龍馬, 公文崇詞, 後藤英一, 黒木浩史, 久保紳一郎, 帖佐悦男,  
 小牧亘, 山下篤, 浅田祐士郎, 桐谷力, 藤本徹, 木屋博昭  
 宮崎医学会誌, 29: 56-60, 2005

## ◆その他

- 1) 第11回日本臨床スポーツ医学会学術会会長として  
 田島直也  
 日本臨床スポーツ医学会誌, 13(suppl.): 52-54, 2005
- 2) 日本臨床スポーツ医学会理事・編集委員長として  
 田島直也  
 日本臨床スポーツ医学会誌, 13(suppl.): 103-104, 2005



- 3) 股関節外科最近の知見  
帖佐悦男  
マルホ整形外科セミナー, 2005, 2, 大阪
- 4) アキレス腱断裂診療ガイドライン作成にあたって  
伊藤博元, 四宮謙一, 南郷明德, 成田哲也, 帖佐悦男, 古府照男,  
阪本桂造  
第 31 回日本整形外科スポーツ医学壇学術集会, 2005, 7, 奈良
- 5) スポーツでケガをした時の応急処置  
帖佐悦男  
NHK いっちょがワイド, 2005, 9, 宮崎

## ◆総 説

- 1) 骨・関節のリハビリテーション  
帖佐悦男, 鳥取部光司  
臨床と研究, 82(6): 962-966, 2005
- 2) 関節リウマチ(RA)に対する新しいターゲティング療法  
帖佐悦男, 関本朝久, 濱田浩朗  
九州リウマチ, 25(1): 1-4, 2005

## ◆学会報告

- 1) Occupational therapy intervention in evaluation of patients with cervical myelopathy:two case reports  
上野ゆみ ピアンカ, 黒木美紀, 鳥取部光司, 帖佐悦男  
第 27 回宮崎リハビリテーション研究会, 2005, 1, 宮崎
- 2) 当センターにおけるアニマルセラピーの現状と課題  
津輪元修一, 山口和正, 久富一郎  
第 27 回宮崎リハビリテーション研究会, 2005, 1, 宮崎
- 3) 転倒事故における要介護認定項目との関連性の検討  
権頭弘賢, 加来美帆, 米谷さおり, 浪平辰州, 野中隆史, 猪俣尚規  
第 27 回宮崎リハビリテーション研究会, 2005, 1, 宮崎

- 4) 大腿骨頸部骨折術後の退院時歩行能力  
 迫田勇一郎, 黒木場博幸, 時任完佳, 中西佑治, 小牧亘, 田辺龍樹  
 第 27 回宮崎リハビリテーション研究会, 2005, 1, 宮崎
- 5) 痙直型脳性麻痺児の頸椎 X 線学的評価  
 小島岳史, 柳園賜一郎, 山口和正  
 第 21 回九州小児整形外科集談会, 2005, 1, 福岡
- 6) ベルテス病にて手術を施行した症例の術前 MRI 所見  
 関本朝久, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 前田和徳  
 第 21 回九州小児整形外科集談会, 2005, 1, 福岡
- 7) 一流高校空手選手に対するメディカルサポート  
 河原勝博, 帖佐悦男, 黒木龍二, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河野立,  
 勝焉葉子, 福島克彦  
 第 32 回 宮崎県スポーツ医学研究会, 2005, 2, 宮崎
- 8) ラグビー日本代表欧州遠征への帯同経験  
 田島卓也, 柏木輝行, 狩野文夫, 矢野良英, 帖佐悦男  
 第 32 回宮崎県スポーツ医学研究会, 2005, 2, 宮崎
- 9) スポーツによる上・下前腸骨棘剥離骨折の治療経験  
 黒木修司, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本徹, 西里徳重, 大宮博史,  
 山田正寿  
 第 32 回宮崎県スポーツ医学研究会, 2005, 2, 宮崎
- 10) 当院におけるアキレス腱皮下断裂の治療成績  
 塩月康弘, 栗原典近, 増田寛, 黒木誠, 佐藤直幸  
 第 32 回宮崎県スポーツ医学研究会, 2005, 2, 宮崎
- 11) U-19 サッカー日本代表チームの帯同経験  
 樋口潤一, 田島直也  
 第 32 回宮崎県スポーツ医学研究会, 2005, 2, 宮崎
- 12) 市民の森病院における関節リウマチに対する白血球除去療法の治療成績  
 日高利彦, 黒田宏, 桑畑睦郎, 篠原典夫, 木村千仍  
 第 20 回宮崎県リウマチ研究会, 第 13 回宮崎リウマチのケア研究会,  
 2005, 2, 宮崎

- 1 3) 関節リウマチにおける血中及び関節液中アドレノメデュリン、PAMPの検討  
濱田浩朗, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 前田和徳  
第 29 回九州リウマチ学会, 2005, 3, 福岡
- 1 4) 関節リウマチ子滑膜細胞初代培養におけるペプチドアドレノメデュリンの作用  
眞鍋香澄, 濱田浩朗, 帖佐悦男  
第 29 回九州リウマチ学会, 2005, 3, 福岡
- 1 5) 関節リウマチ患者に対する白血球除去療法前後の血中および尿中ウリナスタチン値の変動  
日高利彦, 鈴木王洋, 黒田宏, 篠原典夫, 岡田真, 高田邦夫,  
片原田晃士, 中島正裕, 中西貴士  
第 49 回日本リウマチ学会総会・学術集会,  
第 14 回国際リウマチシンポジウム,  
2005, 4, 横浜
- 1 6) 関節リウマチにおける血中及び関節液中アドレノメデュリン、PAMPの検討  
濱田浩朗, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 前田和徳  
第 49 回日本リウマチ学会総会・学術集会,  
第 14 回国際リウマチシンポジウム,  
2005, 4, 横浜
- 1 7) 腰部椎間板ヘルニアに対する後側方固定術の意義と適応について  
黒木浩史, 久保紳一郎, 帖佐悦男, 田島直也  
第 78 回日本整形外科学会学術集会, 2005, 5, 横浜
- 1 8) 股関節 X 線撮影時の肢位の違いによる変化  
渡邊信二, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 濱田浩朗, 前田和徳  
第 78 回日本整形外科学会学術集会, 2005, 5, 横浜
- 1 9) 股関節の MR Arthrography の特徴  
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 前田和徳  
第 78 回日本整形外科学会学術総会, 2005, 5, 横浜
- 2 0) 車椅子ツインバスケットボール競技を行う脊髄損傷者に対するCHARTによる合併症との関連に  
対する検討  
濱田浩朗, 鳥取部光司, 帖佐悦男, 関本朝久, 坂本武郎  
第 42 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2005, 6, 金沢
- 2 1) 脊椎損傷者に対するCHARTによる合併症との関連に対する検討  
濱田浩朗, 鳥取部光司, 帖佐悦男, 関本朝久, 坂本武郎  
第 42 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2005, 6, 金沢

- 2 2) 車椅子ツインバスケットボール選手の CHART による社会的不利と問題点の検討  
鳥取部光司, 帖佐悦男, 濱田浩朗, 黒木浩史, 浪平辰州, 税所 幸一郎  
第 42 回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2005, 6, 金沢
- 2 3) 家族性に半月板形態異常を認めた症例  
小松奈美, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗,  
山本恵太郎, 野崎正太郎, 前田和徳, 福嶋秀一郎, 福島克彦  
第 109 回西日本整形・災害外科学会, 2005, 6, 久留米
- 2 4) 易骨折性を示した親子  
小島岳史, 帖佐悦男, 矢野浩明, 山本恵太郎, 石田康行, 河原勝博,  
河野立, 甲斐糸乃  
第 109 回西日本整形・災害外科学会, 2005, 6, 久留米
- 2 5) 非定型抗酸菌による感染性脊椎炎の 2 例  
黒木修司, 久保紳一郎, 黒木浩史, 濱中秀昭, 坂田勝美, 公文崇詞,  
上通一師, 帖佐悦男  
第 109 回西日本整形・災害外科学会, 2005, 6, 久留米
- 2 6) 骨壊死と鑑別が必要であった不顕性大腿骨頭骨折の一例  
下野哲朗, 前原東洋, 吉永一春, 中川雅裕, 和田正一, 竹之内剛,  
帖佐悦男  
第 109 回西日本整形・災害外科学会, 2005, 6, 久留米
- 2 7) 高校空手選手の傷害調査  
吉川教恵, 山本恵太郎, 河原勝博, 帖佐悦男  
第 109 回西日本整形・災害外科学会, 2005, 6, 久留米
- 2 8) T-Saw を用いた仙骨高位切断術における確実な腫瘍外切除のための小工夫  
上通一師, 久保紳一郎, 黒木浩史, 濱中秀昭, 坂田勝美, 公文崇詞,  
崎濱智美, 帖佐悦男  
第 109 回西日本整形・災害外科学会, 2005, 6, 久留米
- 2 9) 上腕骨骨幹部骨折に対する Hackethal 集束釘固定術の治療経験  
齊田義和, 阿久根広宣, 徳久俊雄, 高妻雅和, 菊地直土, 池之上貴,  
宮崎幸政, 竹内直英, 小田竜, 堀友宏  
第 109 回西日本整形・災害外科学会, 2005, 6, 久留米

3 0) 小児に発症した脊髄梗塞の一例

小田竜, 菊地直士, 阿久根広宣, 徳久俊雄, 高妻雅和, 池之上貴,  
齋田義和, 宮崎幸政, 竹内直英, 堀友宏  
第 109 回西日本整形・災害外科学会, 2005, 6, 久留米

3 1) 認知症高齢者の大腿骨頸部骨折術後の予後について

原田京子, 新原幸子, 田島直也  
高齢者の認知症と転倒・骨折に関する研究プロジェクト第5回研究打ち合わせ  
2005, 6, 東京

3 2) 内側円板状半月板の一例

川添浩史, 森治樹  
第 50 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 6, 宮崎

3 3) 難治性化膿性膝関節炎に対し切除関節形成術にて治療した 2 症例

黒木修司, 木屋博昭, 弓削孝雄, 藤本徹, 西里徳重, 大宮博史,  
山田正寿  
第 50 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 6, 宮崎

3 4) 脛骨プラトー骨折の治療成績

松岡知己, 長鶴義隆, 川野彰裕, 中村嘉宏  
第 50 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 6, 宮崎

3 5) 当院におけるハンソンピンシステムを用いた大腿骨頸部内側骨折の治療経験

船元太郎, 本部浩一, 井上篤, 有住裕一, 江夏剛  
第 50 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 6, 宮崎

3 6) TKA手術後の膝関節拘縮に対しての遊離皮弁による再建を行った一例

岡潔, 高橋国広, 伊木秀郎, 大安剛裕, 横内哲博, 栗原典近,  
田辺龍樹  
第 50 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 6, 宮崎

3 7) Ponseti 法による先天性内反足の治療経験

柳園賜一郎, 福島克彦, 山口和正  
第 50 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 6, 宮崎

3 8) 前腕骨骨折術後に生じた尺骨動脈瘤の1例

野中隆史, 浪平辰州, 猪俣尚規  
第 50 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 6, 宮崎

39) 当科における鏡視下腱板修復術の成績

石田康行, 酒井健, 海田博志

第50回宮崎整形外科懇話会, 2005, 6, 宮崎

40) 褥瘡の外科的治療経験

塩月康弘, 栗原典近, 増田寛

第50回宮崎整形外科懇話会, 2005, 6, 宮崎

41) 腰椎に発生した嚢腫5例の治療経験

堀友宏, 阿久根広宣, 徳久俊雄, 高妻雅和, 菊地直土, 池之上貴,

久枝啓史, 齊田義和, 藤井政徳, 岡本健太郎, 小田竜

第50回宮崎整形外科懇話会, 2005, 6, 宮崎

42) 長期透析患者の脊椎病変に対する手術治療成績の検討

小田竜, 阿久根広宣, 徳久俊雄, 高妻雅和, 菊地直土, 池之上貴,

久枝啓史, 齊田義和, 藤井政徳, 岡本健太郎, 堀友宏

第50回宮崎整形外科懇話会, 2005, 6, 宮崎

43) 腰部脊柱管狭窄症に対する後方要素を温存した椎弓切除術

齊田義和, 阿久根広宣, 徳久俊雄, 高妻雅和, 菊地直土, 池之上貴,

久枝啓史, 藤井政徳, 岡本健太郎, 小田竜, 堀友宏

第50回宮崎整形外科懇話会, 2005, 6, 宮崎

44) 腰椎変性すべり症に対する局所骨を用いた後側方固定術

藤井政徳, 阿久根広宣, 徳久俊雄, 高妻雅和, 菊地直土, 池之上貴,

久枝啓史, 齊田義和, 岡本健太郎, 小田竜, 堀友宏

第50回宮崎整形外科懇話会, 2005, 6, 宮崎

45) 当院における腰部脊柱管狭窄症の手術成績

後藤英一, 後藤啓輔, 田島直也

第50回宮崎整形外科懇話会, 2005, 6, 宮崎

46) 当科における腰部脊柱管狭窄症に対する顕微鏡視下拡大開窓術の術後成績

坂田勝美, 濱中秀昭, 公文崇詞, 上通一師, 崎濱智美, 黒木浩史,

久保紳一郎, 帖佐悦男

第50回宮崎整形外科懇話会, 2005, 6, 宮崎

47) ラグビー競技会における安全評価法の活用

田島卓也, 柏木輝行, 矢野吉英, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 吉川大輔,

吉川教恵

第31回日本整形スポーツ医学会学術集会, 2005, 7, 横浜

- 4 8) 高校空手選手に対するメディカルサポート  
河原勝博, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 吉川教恵  
日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2005, 7, 奈良
- 4 9) Treatment for Idiopathic Scoliosis with the Osaka College (OMC) Brace  
Kuroki H, Kumon T, Goto E, Kubo S, Chosa E, Tajima N  
Harrington Spine Symposium, 2005, 7, Kansas City, USA
- 5 0) 人工関節置換術における MIS への対応  
帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 関本朝久, 前田和徳,  
野崎正太郎, 福嶋秀一郎, 船元太郎  
第 14 回 MX 人工股関節研究会, 2005, 7, 横浜
- 5 1) 早期 RA 診断における CA-RF の意義と従来法との比較について  
徳永好美, 木村千仞, 市原久史, 市原正彬  
第 26 回リウマチセンター間連絡会, 2005, 7, 熊本
- 5 2) 緊急遊離皮弁移植により患肢を温存し得た 2 症例  
岡潔, 高橋国広, 伊木秀郎, 大安剛裕, 横内哲博, 本部浩一,  
井上篤, 有住裕一, 江夏剛, 吉川大輔  
宮崎救急医学会, 2005, 8, 宮崎
- 5 3) 内科・整形外科領域からみた骨粗鬆症治療の現状  
渡邊信二  
Osreoporosis Clinical Network 研究会, 2005, 9, 宮崎
- 5 4) 多関節炎における血中アドレノメデュリン  
濱田浩朗, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久  
第 30 回九州リウマチ学会, 2005, 9, 鹿児島
- 5 5) 関節炎マーカー 早期の多関節炎における血中アドレノメデュリン  
帖佐悦男, 濱田浩朗, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 前田和徳  
第 20 回日本整形外科学会基礎学術集会, 2005, 10, 横浜
- 5 6) 急速破壊性股関節症の発症要因の検討  
渡邊信二, 帖佐悦男, 坂本武郎, 関本朝久, 濱田浩朗, 野崎正太郎,  
前田和徳  
第 32 回日本臨床バイオメカニクス学会, 2005, 10, 札幌

- 57) 高齢者の転倒に伴う骨盤骨折  
後藤英一, 後藤啓輔, 田島直也  
転倒予防医学研究会 第2回研究集会, 2005, 10, 京都
- 58) 中学生サッカー選手にみられた膝蓋大腿関節骨軟骨病変  
園田典生, 村上恵美, 山本恵太郎, 帖佐悦男  
第16回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2005, 11, 東京
- 59) 高校国体候補選手における膝周囲筋力の評価  
河原勝博, 帖佐悦男, 山本恵太郎  
第16回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2005, 11, 東京
- 60) 高校空手選手に対するメディカルサポート  
吉川教恵, 帖佐悦男, 山本恵太郎, 河原勝博  
第16回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2005, 11, 東京
- 61) False Profile 像撮影法の確立  
坂本武郎, 帖佐悦男, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 前田和徳,  
紫垣誠哉, 工藤正喜  
第32回日本股関節学会学術集会, 2005, 11, 新潟
- 62) 骨盤後傾を伴う股関節症の特徴  
前田和徳, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗  
第32回日本股関節学会学術集会, 2005, 11, 新潟
- 63) 手術療法を施行したペルテス病症例の検討  
関本朝久, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 濱田浩朗, 野崎正太郎,  
前田和徳  
第32回日本股関節学会学術集会, 2005, 11, 新潟
- 64) 寛骨臼球状骨切り術  
長鶴義隆, 川野彰裕  
第32回日本股関節学会学術集会, 2005, 11, 新潟
- 65) 先天性股関節亜脱臼に対する保存的治療の成績—乳児期から骨成長期終了期までの長期治療例—  
川野彰裕, 長鶴義隆  
第16回日本小児整形外科学会学術集会, 2005, 11, 盛岡



- 6 6) 長期透析患者の脊椎病変に対する手術治療成績の検討  
久枝啓史, 阿久根広宣, 徳久俊雄, 高妻雅和, 菊地直士, 池之上貴,  
齊田義和, 藤井政徳, 岡本健太郎, 小田竜  
第 110 回西日本整形・災害外科学会, 2005, 11, 宇部
- 6 7) 非腫瘍性脊髄内病変の MRI による検討  
相良孝昭, 赤崎幸二, 木村真, 福本巧, 河野淑彦, 岡潔, 竹村健一,  
武内晴明  
第 110 回西日本整形・災害外科学会, 2005, 11, 宇部
- 6 8) 認知症が骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折の治療成績に与える影響について  
田辺龍樹, 小牧亘, 小牧一麿  
第 110 回西日本整形・災害外科学会, 2005, 11, 宇部
- 6 9) 50歳以上のRAO症例の検討  
福本巧, 赤崎幸二, 相良孝昭, 木村真, 河野淑彦, 岡潔, 竹村健一,  
武内晴明  
第 110 回西日本整形・災害外科学会, 2005, 11, 宇部
- 7 0) 5年以上経過したRAO症例の検討  
河野淑彦, 赤崎幸二, 相良孝昭, 木村真, 福本巧, 岡潔, 竹村健一,  
武内晴明  
第 110 回西日本整形・災害外科学会, 2005, 11, 宇部
- 7 1) 家族性に膝半月形態異常を認めた症例  
山本恵太郎, 帖佐悦男, 矢野浩明, 河原勝博, 石田康行, 小松奈美  
日本関節鏡学会, 2005, 12, 大津
- 7 2) ユース年代のサッカー日本代表チームに対するメディカルサポートの経験  
樋口潤一, 獅子目賢一郎, 帖佐悦男, 田島直也  
第 18 回九州・山口スポーツ医・科学研究会, 2005, 12, 福岡
- 7 3) 鏡視下腱板修復術の変遷  
石田康行, 帖佐悦男, 矢野浩明, 山本恵太郎, 河原勝博, 河野立,  
甲斐糸乃  
第 51 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 12, 宮崎
- 7 4) 圧潰を生じた大腿骨頭壊死症に対する骨頭温存手術  
野崎正太郎, 帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗,  
前田和徳, 船元太郎, 小島岳史  
第 51 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 12, 宮崎

7 5) 膝窩動脈瘤の1手術例

小蘭敬洋, 浪平辰州, 市原久史

第 51 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 12, 宮崎

7 6) Sciatica を伴った Exercise-induced Rhabdomyolysis の一例

魏國雄, 大江幸政

第 51 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 12, 宮崎

7 7) 原因不明の単下肢脱力を認めた2例

栗原典近, 木屋博昭, 藤本徹, 西里徳重, 大宮博史, 山田正寿,  
崎濱智美

第 51 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 12, 宮崎

7 8) 変形性股関節症に対し Bipolar 型人工骨頭置換術施行後再置換を余儀なくされた2症例

崎濱智美, 木屋博昭, 藤本徹, 栗原典近, 西里徳重, 大宮博史,  
山田正寿

第 51 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 12, 宮崎

7 9) 正常小児歩行の検討～三次元歩行分析装置を用いて～

福島克彦, 柳園賜一郎, 山口和正

第 51 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 12, 宮崎

8 0) アキレス腱皮下断裂の保存療法の経験

森治樹, 川添浩史

第 51 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 12, 宮崎

8 1) 大腿骨転子部骨折手術手技の工夫

塩月康弘, 増田寛, 勝蔦葉子

第 51 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 12, 宮崎

8 2) 橈骨遠位端骨折に対する手術療法の成績

江夏剛, 本部浩一, 有住裕一, 弓削七重, 吉川大輔

第 51 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 12, 宮崎

8 3) 上腕骨通下顆骨折に対する ONI transcondylar plate の使用経験

松岡篤, 神菌豊, 渡部正一, 三橋龍馬

第 51 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 12, 宮崎

8 4) 上腕骨外上顆炎に対する Nirschl 法の経験

神菌豊, 渡部正一, 松岡篤, 三橋龍馬

第 51 回宮崎整形外科懇話会, 2005, 12, 宮崎

85) 大腿骨頭壊死の発症誘因とその対策について

桐谷力, 松岡知己, 川野彰裕

第51回宮崎整形外科懇話会, 2005, 12, 宮崎

86) 特発性大腿骨頭壊死症に対するパイプーラー型人工骨頭置換術の長期成績

山田正寿, 木屋博昭, 藤本徹, 栗原典近, 西里徳重, 大宮博史,  
崎濱智美

第51回宮崎整形外科懇話会, 2005, 12, 宮崎

### ◆シンポジウム

1) アキレス腱断裂の診断

帖佐悦男

第31回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 2005, 7, 奈良

2) 圧潰を生じた大腿骨頭壊死に対する骨頭温存手術—セメント充填補強術—

帖佐悦男, 坂本武郎, 渡邊信二, 関本朝久, 濱田浩朗, 前田和徳

第32回日本股関節学会学術集会, 2005, 11, 新潟

### ◆パネルディスカッション

1) 特発性側弯症に対する装具療法が脊椎矢状面アライメントに及ぼす影響

黒木浩史, 公文崇詞, 久保紳一郎, 帖佐悦男, 後藤英一, 帖佐悦男

第39回日本側弯症学会, 2005, 11, 東京

### ◆研究集会

1) Direct Anterior Approach レクチャー

渡邊信二

MIS股関節アプローチセミナー, 2005, 9, 宮崎

2) Anterolateral Approach レクチャー

坂本武郎

MIS股関節アプローチセミナー, 2005, 9, 宮崎

## ◆講 演

- 1) ウォーキングを考える  
田島直也  
島原市医師会勉強会, 2005, 7, 島原
- 2) 変形性股関節症の治療と最近の話題  
帖佐悦男  
第3回 長崎・骨と関節フォーラム, 2005, 1, 長崎
- 3) 交通事故と整形外科疾患  
帖佐悦男  
自賠責保険研修会, 2005, 1, 宮崎
- 4) 関節リウマチ 私の歩いた40余年  
木村千仞  
第20回宮崎県リウマチ研究会, 第13回宮崎リウマチのケア研究会,  
2005, 2, 宮崎
- 5) 三水会 150回の歩み  
田島直也  
三水会150回記念講演会, 2005, 2, 宮崎
- 6) 臨床に必要な単純 X線評価法(特に下肢を中心に)  
帖佐悦男  
西諸医師会・西諸整形外科医会・西諸内科医会合同学術講演会, 2005, 2  
小林
- 7) 人工膝関節置換術について—高度変形膝に対する(再置換を含む)—  
税所幸一郎  
第12回宮崎リウマチ医の会, 2005, 3, 宮崎
- 8) 日常遭遇する腰痛・膝痛の診断と治療  
帖佐悦男  
宮崎市郡外科医会講演会, 2005, 3, 宮崎
- 9) 股関節疾患の画像診断  
帖佐悦男  
第181回新潟整形外科研究会・第29回新潟膝関節研究会・第13回  
新潟股関節研究会, 2005, 3, 新潟

- 1 0) 股関節疾患の診断と治療  
帖佐悦男  
整志会総会記念講演会, 2005, 4, 弘前
- 1 1) 股関節疾患の画像診断と治療  
帖佐悦男  
北九州臨床整形外科医会総会, 2005, 5, 北九州
- 1 2) 下肢の画像診断の基礎  
帖佐悦男  
宮崎市郡整形外科医会 平成 17 年度 5 月例会, 2005, 5, 宮崎
- 1 3) 股関節疾患の診断と治療  
帖佐悦男  
平成 17 年度(第 31 回)福岡臨床整形外科医会総会ならびに  
第 226 回学術講演会, 2005, 5, 福岡
- 1 4) 臨床に役立つ下肢の画像診断  
帖佐悦男  
JCOA 学会 宮崎, 2005, 6, 宮崎
- 1 5) 整形外科医の求める画像情報とは  
帖佐悦男  
第 55 回宮崎放射線技術研究会, 2005, 7, 日向
- 1 6) 日常遭遇する整形外科疾患について  
帖佐悦男  
第 5 回国立病院機構宮崎病院医療セミナー, 2005, 7,  
児湯郡川南町
- 1 7) 関節リウマチの最新の治療法  
帖佐悦男  
リウマチ医療講習会, 2005, 9, 日南
- 1 8) 専門医に聞く 関節リウマチは何処まで治せるのか  
帖佐悦男  
第 30 回九州リウマチ学会, 2005, 9, 鹿児島
- 1 9) 股関節症の画像診断 単純 X 線と MRI を中心に  
帖佐悦男  
第 6 回股関節代謝外科研究会, 2005, 11, 津

20) 股関節疾患の画像診断

帖佐悦男

第10回くにびき整形外科セミナー, 2005, 11, 松江

21) 股関節疾患の画像診断

帖佐悦男

学術講演会(生涯教育講座), 2005, 12, 福島

22) 股関節疾患の画像診断 最近の話題を含めて

帖佐悦男

第7回 Latest Orthopedics 研究会, 2005, 12, 京都

## 編集後記

今回、実質的に初めて同門会誌の編集に参加させていただきました。原稿依頼から校正、編集とこれまでの編集委員の先生方がやってこられたことに敬服いたしますと共にこれから微力ながら精進させていただきます。

さて、今回は長鶴先生に“退職にあたって”をご寄稿いただきました。我々、後輩の医師には身にしみる、熱いメッセージが込められています。長鶴先生、お疲れ様でしたと共に今後とも御指導宜しくをお願いいたします。

メインテーマは女性医師の現状とさせていただきました。男性医師が多い整形外科で家事、育児と両立させながら診療されている、される予定である女性医師の先生方の状況を少しでも理解し協力できればいいかと思えます。

その他、関連病院近況、同門会、医局行事、新規開業、新入会員紹介などがあります。皆様に目を通していただけると幸いです。

平成19年5月吉日

石田 康行

宮崎大学医学部整形外科

# 同 門 会 誌

発 行 日 平成19年 5 月

発 行 者 宮崎大学医学部整形外科学教室同門会

編集責任者 渡 邊 信 二

印 刷 所 宮崎県児湯郡新富町大字上富田4726-1  
身体障害者就労支援施設 あゆみの里